京城日報

八日夕刊（朝夕刊併せて八頁）

大正六年十二月九日　THE KEIJO NIPPO　第三千六百七十三號（一）　明治三十九年八月十日第三種郵便物認可

本紙定價　一部金二錢五厘　一ケ月金五十五錢
發行所　京城太平町通一丁目　京城日報社

休戰交涉顚末
曖昧なる敵國側の言辭

露國休戰交涉經過に就き無線電信に依りて報せられたる露國公報左の如し（哈爾賓電報）

休戰談判は十二月五日を以て開始さる敵國側としては獨逸、墺匈國、土耳古、勃牙利の軍事代表者列席我代表者は先づ平和の目的に就て宣言する所ありしに敵國代表者は『开は政治家の思惟す可き問題なり我等は軍人なり故に唯休戰に關してのみ交涉するの權利を附與せられたるものなれば之に發せられたるツエルニン及びキユールマン兩氏の宣言以外何事をも述ぶる能はず』と答へたり。我代表者は曖昧なる言辭に對しての答辯を控へ更らに『此の會議に代表者を送らざる交戰國全部に向つて直ちに一般的休戰の提議を爲す可し』と申出でたり右に對し敵國代表者は『我等は斯かる權限を附與され居らず』との又も曖昧なる返答を爲せるに依り我代表者は『然らば敵國代表者は其の政府に向つて之に對する權限の附與を請はれ度し』と要求したるが此の議は容れられたり されど其の回答は未だに著せず而して我れは全戰線の休戰も我國より聯合國軍側戰線への軍隊輸送禁止及びムーン群島よりの獨兵撤退の件を申込みたるが獨逸の委員は波羅的海より黑海に到る戰線の休戰を申込みたり而して我代表者は該交涉は明朝迄延期すべしと云ひたるに彼れは我條件を斥け『左樣なる條件は戰敗國に向て提議す可きものなり』と述べたり我代表者は之に答へて『吾人は國民代表會全露大會に依りて決定したる民主的一般平和を希望して斯く提議せるものなり』と云へり敵國代表者は之に對し曖昧に『獨逸は露國の聯合國が此の會議に缺席したるものとして露國と交涉す可しと命令せられたり』と返答せり茲に於て我代表者は一般的平和を議する爲め全交戰國を招致せんと希望する旨を答へたるに敵國代表者は休戰を十二月十八日より二十八日間に延長するの議に賛意を表したり我代表者は次回の會合を露國領土內に開催し我代表者を露都に歸還せしむる爲め七日間の日限を置かん事を依頼せり又我代表者は交涉經過の顚末を露獨兩國語にて發表せん事を主張したり

沿黑龍江州獨立（決議）
聯合各國と終始せん

露領西比利亞沿黑龍江州大會は全會一致を以て獨立を宣言する事に決議せり即ち無政府狀態の露國を救ふ可く獨立國を組織し正義人道の爲め奮鬪しつゝある聯合各國と飽く迄終始すと云ふにあり而して獨立後に於ける內外政務の一切を擧げて會長シシロフ氏に委任し其の旨過激派政府其他に通告せり（哈爾賓特電）

露軍休戰と羅線影響

露軍の休戰は羅馬尼戰線に影響しつゝあり（露都電報）

露在外使節罷免

露國外相トロツキー氏は在外各大公使を悉く罷免したり（紐育電報）

馬邱間道路竣成

大邱馬山間約二十二里の二等道路竣成し兩地間に乘合自動車運轉の計畫あり既に玄風迄の運轉を開始し居れるが八日鈴木慶北道長官、部警務部長同吉松第一部長松本第二部長外七名は二臺の自動車に分乘し來馬せるが當地にては一行を望月に招待、歡迎會を開けり一行は九日歸任の豫定なり（馬山特電）

農商務新事業
重なる計畫內容

農商務省所管大正七年度新規要求の主要なるものは前年度の如くにして、六年度實行豫算に比し千四百八十三萬四千六百圓の增加なり而して右增額の內全然新計畫に屬する重なるものは第一製鐵所擴張費千百五十八萬一千圓（總額二千七百四十七萬圓三箇年繼續）第二綿羊飼育獎勵費三十萬二千餘圓第三大阪工業試驗所設置費七十八萬餘圓第四絹業試驗所設置費十萬五千餘圓第五蠶業研究所設置費二十六萬三千餘圓第六海外商品陳列館設置費九萬一千餘圓第七土地利用調査費十二萬七千餘圓なり而して製鐵所擴張は十萬二千餘噸の鋼塊及鋼片製造能力增加を目的とするものにして之が爲めに要す可き鐵鑛に就ては目下服部製鐵所次長の手に於て調査中なり綿羊飼育の獎勵は羊毛自給の目的に出でたるものにして初年度は僅かに三十萬圓を要求するに止めたるも八年度に於ては五十萬圓を要求する豫定なりと云ふ農商務省の計畫に依れば每年豫定の獎勵を繼續するに於ては今後十七箇年間には羊毛自給の目的を達し得可き見込なりと次に大阪工業試驗所の設置は專ら印度支那及び南洋等の貿易に關係ある工業製品の試驗を目的とするものにして前記經費の內七十萬圓は臨時費として支辨す可きものなりと蠶絲研究所は全く獨立の研究機關にして多分東京に設置せらるゝ事となる可しと（東京）

土木會議開會

八日午前十時より總督府第一會議室に於て土木會議を開會し宇佐美內務部長官以下各當局參集其々協議する處ありたり

軍隊事務打合

龍山軍司令部にては來る十二日歩兵第四十旅團長及び第七十九聯隊長同八十聯隊長並に鎭海灣砲兵大隊長等を召集し軍隊集結其他之に關聯する事務打合せをなす筈なりと

土地調査局減員

臨時土地調査局にては十日附總務一技術整理製圖各課に亙り事務終了のため書記二十九名雇員七十四名の能免をなすべし

關釜間の海上輸送力減退
連帶貨物受託制限

關釜間海上輸送力は客月來定期船の外に臨時貨物船共榮丸を配船し一日の最大輸送能力を一千噸たらしめたるが共榮丸は七日午後釜山發限りにて配船を廢止し今後の一日平均輸送力は約八百噸（日鮮滿發六百四十噸）に減少せり依つて當分の內鮮滿發連帶扱貨物は本州鐵道管理局管內以東行四百八十噸下關及九州行百六十噸の標準にて輸送することゝなりたるが右に付朝鮮線內各驛發の貨物承認噸數は今八日より當分の內本州幡生以東行は從前の如くなるが下關及九州行は車扱は每日四車噸扱は一驛一日の發送に噸迄とし貨物は無制限となれり因に本月二十日頃より錦州丸を臨時貨物船として就航せしむる筈なれば就航の上は下關及び九州行の輸送力を增加することを得べしと

日露電報不通

京城浦鹽中繼の日露電報は七日以來イルクツク以西に於て故障のため不通となりたるに付其の取扱を停止せり但浦鹽行きは差支へなしと

對支投資既に一億
日支日露間に於ける財界の諸問題
鮮銀理事　木村雄次氏談

本年下半期來對支那其他事業資金增加のため七日午後入京せし鮮銀理事木村雄次氏の談に曰く

▲滙業銀行の眞價　日支滙業銀行と云ふ名目で世上に知られた日支合辦の滙業銀行は資本金一千萬圓を五百萬圓宛の日支折半で之を引受け支那の法律により最近成立した、日本側の持株は興銀、鮮銀を主とし其他東西シンジケート銀行と有力な個人で引受くる事に決定、支那側は既に拂込みをやり、日本側は來る十二月十七日第一回の拂込みを終つたから明年から營業を開始する事となつた、本店は素より北京で支店を差し向き東京に設け追つては青島や上海や天津や大阪に增設もしやう、此銀行は支那側より頗る乘氣になり其の見る所では眞正な意味の日支合辦の設立を希望し來つたもので、予は新事業として其の第一に數へらるべきものと思ふ、素より日支合辦を名目とする事業は可なりある、然し殆んど全部資金や幹部を日本で出してゐて、支那は權利などを形だけ提供すると云つた風だ、然るに此の滙業銀行は資本も事務も折半し幹部は總裁に陸宗輿氏を据ゑ兎角兩國の誠意ある合辦銀行と公言して差支へない

▲唯一の支那銀行　滙業銀行の役員は拂込終了後の創立總會で選任する事となつてゐるが總裁は陸氏專務は日銀の柿內氏就任すべく內定し理事や監事はまだ定まつてゐない、又此の銀行は支那唯一の資金ある完全な銀行と云つてよい、北京には交通、中國の兩銀行あるも何れも政府の一機關たるやの觀あり、必要に應じて紙幣の發行をやつてゐる、又外に濫發の行なせもあるやうだが、正則な銀行として支那の金融の衝に當る業務以外今後支那借款の仲介をやるべく、興銀なども資金を取次いで、支那內陸に注ぎ込み棉花や羊毛の生産額を殖やし、其の供給を日本に致し日本から多くの棉絲布の輸入を受けるやうに仕向くるとか、日支間の經濟提携には頗る重要な働きをする事となるべく將來有望視され、一般の氣受けは極めて宜しい

▲運河借款成立（條件て交涉）中であつた支那運河借款も十一月末北京で調印した、之れは日米共同の支那放資であつて總額一千二百萬圓、米國が七百萬圓日本が五百萬圓である、日本の五百萬圓は興銀、朝銀と鮮銀の三行で引受けるか又東西組合銀行團の引受けとなるかは未だ確と定まらぬ、此の借款の目的は支那の大運河たる天津より揚子江に至る直隸山東江蘇三省に跨る大運河渠の修理である、元來此運河は南北貨物輸送の大幹線だつたが久しく之を自然に放任したため現今或る所は土砂沈澱し或る所は缺落して用をなさず反つて色んな害がある乃で支那政府は其の修理を企て結局運河借款となつた

▲對支放資一億　最近天津附近の水害善後策に充當する水害借款も、組合銀行十一行で四十五萬圓乃至引受で五百萬圓だけ放資した、茲に歐戰以來國內に充實せる正貨の對支放資と云ふ事は朝野の八分通り一致した問題であるが、今日までに交通銀行の二千五百萬圓借款を第一として、此の運河借款、水害借款まで入れると總額一億圓位の投資を支那にやつてゐる、今後も引續き出る事と思ふが盛んにやつて宜しい

▲日露銀行問題　日露銀行の設立は曩に露國信用銀行頭取コンシン氏と西比利亞シンジケート銀行との間に交涉を進め既に調印を終つてゐるが、其の設立をいつにするかと云ふ事は問題として殘されてゐる、然しコ氏の意見では露國がいかに亂脈の如く紊れても遂に秩序は恢復されて國內の統一ら實現するを疑はず、コルニーロフ將軍によりて統一されるかと云ふ予等も其の何人が統一するかは暫らく措き大觀して其の統一を信じてゐる

客月貿易

昨年同期に比し何れも增加

一月以降累計一億六千餘萬圓

十一月中の朝鮮貿易は輸移出品價額一千百六十一萬六千餘圓、輸移入品價額九百二十三萬四千餘圓合計二千八十五萬一千餘圓にして前年同月に比し輸移出二百三十九萬一千餘圓輸移入三百八十三萬六千餘圓の增加を示せり而して一月以降

▲貿易額累計は　輸移出七千四百十一萬三千餘圓輸移入九千九十九萬九千餘圓合計一億六千五百十一萬二千餘圓にして出入の差額は一千六百八十七萬六千餘圓の入超を示し之を前年同期に比較するときは輸移出二千六百九十二萬二千餘圓輸移入二千四百三十九萬二千餘圓を孰れも增進したるが入超額に於ては二百五十三萬餘圓の減少なりとす次に重要品に就き前年同月に比し其消長を觀察するに輸移出貿易に於ては米は前月來內地相場騰貴を告げしに拘はらず克く不引合勝なりしが下半月に入り

▲出廻り增加に　連れ人氣產地よりの軟化と共に移出盛況を呈したる

各々八萬餘圓

鐵塊に於て前年同月に比し一萬三千餘圓を增し又牛は露國並支那向は頗る不振を極め出荷は前年の半額に達せざるの狀況なりしを以て數量二萬四千石を減じたるも市價の關係上價額に於て百七萬三千餘圓を增し叺は前年の凶作に反し豐作なりしを以て價額に於て七十四萬三千餘圓を增し其他大豆、精米、鐵鑛及び黑鉛等に在りては全羅銀鑛に僅少の出廻りを見たるも外銀鑛石鑛及び黑鉛に在りて合せて八萬三千餘圓の增進を示す一方土地よりの出廻り盛ならず大豆は前年に比し牛皮並に生皮より八萬四千餘圓を減じ生皮は相變らず出荷不振に前年に比し前者十五萬四千餘圓後者三十三萬八千餘圓の減退を告げたり輸移入貿易に在りては米價の低落と共に銀價の騰貴に由り

相場漸騰步調

前月中朝鮮內地に依然相場の騰貴あり輸入は本年同月に比し二萬九千餘圓を增加し綿絲は依り一般に在人氣を期待せられし等の理由に依り前年に五十二萬九千餘圓を減じ綿織物は前年同月に比し三十二萬五千餘圓を增し其他木綿は天竺布に十四萬七千餘圓の增加を示し機械類は二十二萬三千餘圓の增加を示し以て事業界の旺盛を著增し其他引續き相場高の關係より熟鐵に十七萬二千餘圓諸器械に二十一萬一千餘圓木材に十九萬九千餘圓の增加を示せり之に反し減退せしは石油の

十八萬七千餘

圓綿織物石炭に三十一萬九千餘圓木材に八萬九千餘圓の增加を示せり之に反し減退せしは石油の十三萬一千餘圓生皮及び熟皮の三萬六千餘圓を主なるものとす

木浦米高知移出

十一月中に於ける木浦港移出玄米は總計一萬七千八百四十九叺七千百三十九石六斗にして仕向地は三百叺の高知行きを除きて總て大阪仕向也尙ほ高知に對する木浦玄米直移出は此の月を以つて嚆矢とすと之れを大正五年十一月中移出玄米九千二十四叺四千五百十二石に比すれば二千六百二十七石六斗の增加にして大正五年度に於て十一月中の檢査高は大正六年に於ても移出多きが其理由は大正五年は其收穫の不良なりしに反し本年は至つて豐作なりしと相場騰貴の爲め移出旺盛となれるを得たるも檢查改正の關係等なりしと

新入營兵到着

歩兵第八十聯隊大田分屯第三大隊へ入營すべき新兵二百七十四名は七日午前十一時十七分著列車にて大田著直ちに入營せり因みに入營式は十日午前執行の筈なり（大田）

司令官披露宴

軍司令官松川敏胤中將は今般歩兵第四十旅團司令部及び歩兵第七十九聯隊龍山新營移轉につき之が披露の爲め來る十五日午後四時より總督府殿官邸に於て張宴山縣政務總監各部局長官總務師團上級官鮮銀民間有力者新聞通信社長及び軍關係記者約二百名を招待すべしと

露國少將通過

露國陸軍少將パクパノフ氏は七日午後七時十分南大門發通過長崎に向へり

古海總長巡閱

古海警務總長は國府保安課長、太田副官を隨へ慶尙南道管內巡閱の爲め往復九日乃の豫定を以て九日午前南大門發列車にて出發の筈

鹽澤大佐巡視

京畿道警務部長鹽澤大佐は九日午前警務部及び憲兵隊本部各室內火災用具其他室內の整理狀況を巡視せり

鮮銀總裁歸期

久しく東上中なりし朝鮮銀行總裁美濃部俊吉氏は

石見艦浦鹽急航
在留邦人保護の爲め

浦鹽方面に於ける形勢益々不穩に付呉碇泊中の石見艦は其筋の命により在留邦人保護の爲め浦鹽に向け急航す可し（東京電報）

馮總統南北に命令
不日政府の方針決定せん

馮總統は五日夜南軍と對峙せる各省督軍師團長等に打電し『政府は平和を欲すされど督軍中強硬論を唱ふる者を無視するを得ず政府の方針は數日ならずして決定せん其れ迄は停戰して現狀を變更する勿れ』と命令し同時に南方に對しても同樣の命令を發し誠心誠意平和を冀ふや否やを問へり（北京特電）

石塚總裁退院

總督府醫院に入院中の石塚東拓總裁は七日午後若くは八日退院すべしと

（石塚總裁）一行は七日午後四時京城驛發下關に直行八日下關出帆九日朝釜山上陸同日午後九時南大門驛著赴任すべしと

川瀨博士退京

東京帝國大學農科大學教授林學博士川瀨善太郎氏は先般慶尙南道に於ける東拓林の視察を終へ入京せしが八日午前南大門發列車にて內地へ向け出發せり

大倉男歡迎會

先月十日入京直ちに本溪湖青島方面へ進みし大倉喜八郎男は同方面の視察を了へ來る十四日再び入京すべく從つて前に時間の都合上中止となりたる同男歡迎晩餐會は金谷府尹川上拓東理事、三島鮮銀理事其他官民有力者發起となり愈々十四日朝鮮ホテルに於て開催することゝなれりと

鳥居龍藏氏動靜

帝大講師總督府囑託鳥居龍藏氏は七日午後二時安東より大邱著直ちに達城山に上り城趾發掘場所二箇所を撰定したる上唯家旅館に投宿したるが八日より三日間の豫定にて發掘調査を爲し夫れより沙門外一二箇所を調査し十二三日頃出發慶南居昌を經て金海に向ふ筈なり

藤原專務入京

新義州に滯在中の王子製紙專務藤原銀次郎氏は八日夜入京すべし

高瀨東拓理事入京

奉天駐在東拓理事高瀨梅吉氏は九日著入京すべしと

故小松教諭遺骨通過

大連に於て客死したる故平壤女子高等普通學校教諭小松久夫氏の遺族は氏の遺骨を擁して八日午後七時五十分南大門驛通過歸國せり

人事消息

▲中村楠七郎氏（中村組社長）七日朝釜山上陸午前十時半發にて北行

▲石渡新太郎氏（明治鑛業朝鮮支配人）八日午前驪州へ

▲權藤四郞介氏（李王職事務官）八日午前水原へ

▲奥村安太郎氏（朝鮮無煙炭販賣）八日午前入京不知火旅館へ

▲江藤哲藏氏（代議士）七日午後入京

▲野島大佐（歩兵第七十七聯隊長）七日午後內地より歸任

▲堀三之助氏（滿鐵技術局長）七日午後安東へ

▲行弘寬氏（藤生醸藥支配人）七日午後入京

▲ラムプトン氏（北京駐在英國大使館附書記官）七日午後入京朝鮮ホテルへ

▲梶村海州農學校長　七日午後入京巴城館へ

▲ダブリツ、エムライス氏（京城駐在英國副領事）七日午後平

▲新田鐵道局工務課長　滿鐵經營開始に付維長鐵道方面視察中の處五日歸任

▲今村京畿道第二部長　抱川、揚州、開城、坡州管內郡事務視察の爲め十日間の豫定にて六日京城出發

▲白井木城氏（辯護士）七日入京

露西亞
何故混亂するか？（二）

世界の大勢は新時代を促して之れに內薄しつゝあり（5）

〇要するに『露西亞地下の狀態は、非常に不自然な現れを自然として證驗しなければならなかつた事に因して居るのであらう。不自然には矛盾が伴ひ混亂が從つて來る。彼等の智識階級は、兩步の第一步第二步に於て道を踏み誤まらしめたのである。——そこで所謂『露西亞はひろい廣い野原なんだ、そこで道を踏み迷つたら、如何したつて斯樣したつて、迚もちよつとやそつとで行く處へなんか行かれやしねえよ』と云はれてある通りになつたのである。

〇野原にも道はある、露西亞にも國是はある、けれど、廣漠無邊たる露西亞にして、この國是をなみしたる爲めの混亂に入つては、この混亂の終末を何時を限りと旣に斷ずる事は出來ないのである。かくて混亂の因は吾人の觀察の方面よりして、露西亞新舊兩生活の交錯に際して、兩者の間に到底超ゆるとの許されぬ樣な深大な溝渠が横存して居て、融合妥協の餘地を持つて居ない處にある、と斷ずべきで、時に處に世界の大勢は、新時代を興してこれに內薄して居るのである。——大きい過渡期に當つて最も困難なる事情の下に横つて居るのである。

〇蓋しこの混亂はこの深大なる原因あつて存するに於て、不止得の事實である。然も國民の大多數たる露西亞の農民は、今尙——依然として貧窮の中に暫々兇窮、働き手に死なれた老爺が飢に泣く兒女の數人を前に餓死を目前にしながら、『何ア神樣が助けて下さるでせう』と、平然としてゐるといふ話の樣に、——彼等は平然と『何アに神樣はわれ〳〵露西亞をお見下しになるに定つて居るのだ』と、何時迄も投つからかして置かれる筈はない、時がまだ來ないのだ、その時にならないのだ』と、懶い呟きを繰返して居るのであらう

〇かくて何の日にか、その時が來るのであらう。この因に於ける混亂が終熄するであらうぞ、これを思ふて今更にその遼遠なるべきに驚きをなすのである。

〇倘吾人は、露西亞混亂の其因に屬する一として、尙氣候風土との關係、それと宗教との關係をも考へべきであることを書き加へて、この稿を此處に終るのである。——完——（あきら生）

十一月一日現行

容貌美よりも健康美

歐米各國を視察して得た實教訓

大阪醫科大學 正井教授談

今回瑞典より歸朝したる大阪醫科大學正井教授は釜山行列車中にて訪問の記者に感想を語つて曰く

歐洲戰爭の經驗に依つて最も適切に感せられて來たのは人種を如何にして改良すべきか人類の營養問題は奈何、と言ふ問題である

◆歐米に於ては ◆學者經世家に 依つて夙に研究され英國では十九世紀頭からロンドン大學に講座を設け米國の大學に於ても近く實施されたが、翻つて日本の現狀を觀ると悲しい哉學者にして此學に志した者は稀で國民一般も又全然頓着して居らない、大學には勿論講座なども設けられてない、身體強健の白皙人が熱心に研究してゐるのに日本に於て斯學が全く等閑に附せられて居ると云ふことは極めて不合理であり矛盾である、親しく歐米各國を視察した眼を以つて日本を觀ると實に情ない感がする、謂ふ迄もなく

◆優勢な國民は ◆劣等人種を氓ぼす事は大和民族がアイヌ族を氓ばした事實に照らしても瞭かで歐米に於ても斯る例は多いのである然るに日本では目前の實教訓に對して何等の注意も拂はず將來白皙人に對抗し得る丈けの優良なる人種を作らねばならぬと言ふ人種上の觀念もなければ國民的の覺悟もない、例へば容貌美に對する觀念にしても歐米人殊に體育の旺んな瑞典などでは健康美を發揮する事に勗めて婦人は好んで面を天日に曝し五體の均整を保たんが爲めに

◆運動を奬勵す ◆ると言ふ風に 至つて生理本位であるが日本では之と反對に蒲柳の質が歡迎され而も健康美よりも白粉で塗りかくした不自然美を尚ぶと言ふ風であるから婦人の體格は歐米婦人に比較して殆んど問題にならぬ程貧弱なものである、日本では國語は椅子の破れ目から寒風が吹き込んでも[illegible]瑞典邊りでは下宿屋の下等なる室内に入ると今日の温度は何度か濕度は何%かなどと訊く程で個人衞生を重んずる事は日本人から見ると神經過敏と思はれる程であるが瑞典に滯在中昨年の夏から秋にかけて日本に虎列拉が猖獗を極め續いてペストもらうと思ふ

◆傳染病の流行 ◆は國辱だと言ふ聲が旺んに起つたが其時計りは地の中に潜つて了ひたい念ひがした歐米の文明國では今日に於ては都市衞生の施設で個人衞生の觀念が發達して居るから傳染病の流行は極めて稀である營養問題にしても獨逸などは食糧に缺乏して此のまゝで行けば國民は營養不良に陷つて人種の上に一大危機を招く事を恐るるよりも寧ろ懼れてゐるから各國は相協力して營養問題に關する研究を重ね今では食糧に缺乏して居りながら國民は營養を可成り攝取する事が出來て居ると言ふ風であるから

◆現今世界に於 ◆いて人種改良及び人類營養問題に關して最も憂慮すべきは食糧に缺乏し優良の白皙人を喪ひつゝ有る獨逸其他の白皙人國に非ずして食糧も豐富であり國民も新鋭である處の日本である

♣雪投げ 八日朝日の出小學校庭にて

勿驚一日に三十里

山地の警察力は只健脚にあり

成鏡南道に於ける憲兵道路は最近漸く完成し深山僻地にも警察の手は行き屆く樣になつたが何分にも長津、豐山、以北の各郡は年中旅人の姿を見た事がないと言ふ地方が多いから交通は極めて困難で、警察力を充分に可能ならしむるには什うしても

▲健脚に依 らねばならぬ、で我諸は著任以來、山中に於ける警察力は脚にありと言ふモットーの下に盛んに健脚を奬勵して居るが憲兵を始め補助員の脚の強い事は

▲驚く許り で一日に十五里から三十里位ゐ歩くものは珍らしくない何分戶口調査をするにしても甲の谷に一軒乙の山中に一軒と言ふ風に人家が稀である故

▲一日掛り で二戶以上調査する事の出來ない處が多く變死のあつた時とか警察事故の起つた場合などには山越ね谷越ねで三日も日數を費やしてやつと

▲出張用務 を果して來るなどと言ふ事も尠くないから憲兵は何よりも先づ健脚たる事が第一の要素である併し山地に於ける健脚者は獨り憲兵計りでない文官の中でも甲山又い處から

▲北青まで 往復約六十里の道を二日間で歩き某郵便所長は長津から黃草其他の峻嶺を越ねて僅かに一日半で咸興に出て來たなどと言ふ實例が

▲いくらも ある之れは全く自然の要求に依つて不知不識の健脚になつて了ふのである、出ずれば何あり電車あり汽車ある都會人の想像だに及ばぬ處であらうと思はれる斯樣に

▲咸南奥地 に勤務する憲兵は交通機關の不便の爲めに一にも二にも自己の健脚に賴らねばならぬが然も一日の出張費は僅か二十錢である警察官などでは

▲不便至極 の奥地に於いて此丈けの苦心をして殆んど小使にも足らぬ薄給である事を思ふといたならばとても執職しないであらうが憲兵は命合一下でどんな困難な任地にでも赴くから咸南北の地と雖も

▲警察力を 充分に布く事が出來るのである我諸は今回の管內巡視に依つて奥地に於ける憲兵警察の困難な事と彼等の生活とを親しく見て

▲同情に堪 へざる念があつたが我咸鏡南道に於て一部の人の唱ふるが如く憲兵制度を撤廢し警察制度とする事は長い歲月を要する事と思ふ(咸鏡南道警務部長小河市之亟氏談)

七日夜の大吹雪

割合に暖かい

京城は七日午後より斷續的に降雪あり黃昏時より吹雪となり殊に夜の深くなるに伴れて

▲益々風劇しく 終夜ねざ[illegible]

引揚工事中に漂流者を救ふ

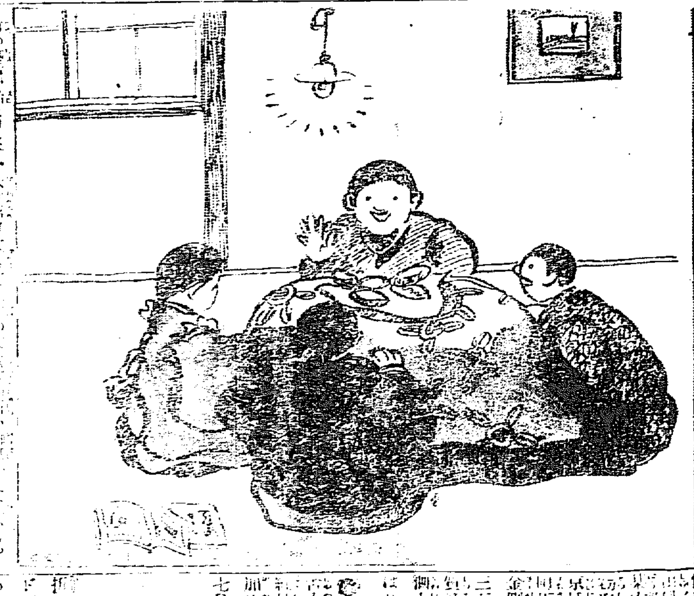
咸鏡南道長 淵邑內扁西彥太郞所有帆船扁進丸(二十三噸)に船頭中俣化外二名が乘組み木炭材料の楢の木八千貫(五百圓)を積込み弁津より雄二浦に向け長淵郡白館面遊津武津沖合を航行中烈風に襲はれ岩石に衝突して難破沈沒したるが乘組員は附近にて沈沒船の引揚げ工事中なる古井田惣四郞外三名が馳けつけて救助したり船體の損害約四百五十圓積荷も全部流失せり

吏員公金拐帶

大阪市吏員上田重雄(?)は共謀して公金八千四百圓を拐帶逃亡せり(大阪特電)

▲本浦方面に現 はれたる低氣壓の影響なりしを以て八日午前に至り該低氣壓の元山方面より日本海地方へ進走し去りし後は之が方面に現はれたる高氣壓の襲來せし爲め所謂三寒四溫に入る溫度は是より下降すべしとなりしたれどこハ[illegible]

[illegible]本町より京城の[illegible]の降雪ありし地方は僅かに京城のみならず平壤、鎭南浦、元山、仁川及び群山地方等にて最も[illegible]



♣初冬スケッチ=炬燵= 學校から歸つて來た太郎ちやんや花子ちやん達は紫しい夕飯が濟むと御居間のおこたにはいつて今日一日の話をかつた

[illegible]事の話が始まります。太郎は[illegible]……

八雲琴(八)

(淪落の女(末路))

押しもスリッパの音も騷くグランドデッキに引つて來た青年士官があつた腕には三本の金線と二條の袖章が月に映じてキラキラと光る……後の青年はいさゝか短艇の下に

◆物思ひに 沈んで居る、何か思ひもしく太い嘆息をした……彼はAである、サイドの鐵欄に倚つて眼前に擴がる海を前に目を伏せて悲痛に耽る

◆氣違つて 見た處は暗……一言も云はずに人々が止めたのも聞かず、脚長も調理長もボーイも大抵は……

◆甚苦痛を 忍んで、ベッドに顏を埋めて……夜になつてから頭を否んで散々泣いた人を……ランデーも否んだがとうしても駄目であつた……興奮して……寂靜まるのを待つて月を相手に散々泣く積りでグラウンドデッキに引つたのであつたいさ子はAの姿を見るや

◆騷ぐ胸を おさへて躊躇して居たが幸ひ人目もなかつたので眼目せるAの側に靜かに寄つてそして極めて細い聲で『Aさん』と呼んだAは夢から覺めた樣に…ハッとして注視したと同時に『汝ッ』と云ひ樣Aの鐵拳はいさ子の身に加へられんとした……がいさ子は人妻である

◆殊に腐敗 した女と云ふ事がAの頭に電光の樣に浮んだ……Aは臍を喰ひ縮つて一語も云はずさッさと歸らんとしたいさ子は必死の力を籠めた纖手はAの上服の裾を捕へた『マ、待つて下さい今となつては何事も申しませ

[illegible]

♪ 逍遙となつて死ぬ十日程前から病勢が募り愈々死期が迫つて來た事を自覺すると流石

[illegible]

△逍なつた[illegible]氏は十四歲の時御詠歌を作つて先輩に驚嘆せられた程に才氣煥發した人であつたが不幸にも十七歲の時から腦を冒された△數年前[illegible]

口篆刻募集

新年號揭載、十五日迄に一人一顆に限り(印顆に限る)本社編輯局宛の事

讀者文藝 課題及募集規定

□募集規程 ▲用紙は端書又は同形の用紙一枚毎に紙上の雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事 ▲期限は一週間後▲種類の記入[illegible]

少年大賊捕はる

住所不定の質賦龍(一七)は本年九月出獄後十月以降に龍山漢江通、和田町方にて衣類雜品七點(百二圓)を窃取したるを手初めに同町渡邊、京城蛤洞宇野、同洞掛場、仁川宮坂本、寺町吉川方等にて金指輪、金側懷中時計、珊瑚其他の金屬類等三百餘圓の物を窃取し僞名して入質し又は賣却して遊興費に消し尙ほ餘罪あるものゝ如く此の程鍾路警察署の手に捕はれ嚴重取調の上檢事局へ送り

◆猩紅熱 京城本町官舍山下清子(一三)は五日發病七日病院に入院したるが同人は日の出小學校生徒であるので消毒を[illegible]

伊之助に告ぐ 至急直ぐ歸れ 父より

◆お目の前 で此海中に身を投げて死んでお詫を致しますどうかお心を靜めて妾の申し上げました事をお聞き下さいまし」いきなり……たつた一言……たつた一言申し上げましたら妾は貴方の

……は A に取りすがつた……をして淚に眼も潤んで……

◆雨眼から は何時とも知られぬ涙がハラハラと流れ落ちた彼女は……たつた一言……

商況

南北現物特電

公債直取引

深川在米特電

東京期米特電

大阪株式

大阪三品特電

大阪期米特電

下關期米特電

雜報

◆米は反落 十錢方低落 ◆平價更に下押 ◆十錢方下 ◆二十一圓二十錢 ◆期米は一錢方上げ ◆最近數回 ◆二十圓以上暴騰 ◆本日相場 ◆七十二圓九十錢 ◆二十八圓 ◆一圓方下 ◆上品十九圓六 ◆地糖界軟弱

◆練乳値上か

下關相場

◆綿糸布引返 ◆各期九十 ◆跳上 ◆殆ど十圓方昂騰 ◆現物 ◆綿布龍シー十圓 ◆九龍十圓五錢 ◆氣配 ◆正米強含み ◆沿線方面は更に ◆高模樣 ◆內地正米市況又 ◆出廻薄 ◆一寸低落 ◆鐵板は軟調

銘柄	相場
白米	二十五圓二十錢
[illegible]	二十五圓
[illegible]	十四圓六十錢
[illegible]	十四圓四十錢
[illegible]	十四圓七十錢
[illegible]	十四圓二十錢
[illegible]	十四圓六十錢
[illegible]	十四圓十五錢
[illegible]	十四圓八十錢
[illegible]	十四圓七十錢
[illegible]	十四圓九十錢

各地商況

◆大邱米況(七日)

南大門の廻穀

仁川正米

◆更に二三十高人氣

釜山穀物(七日)

仁川期米

▲八日前場(強硬) 大阪天候晴天 ▲東京六十八錢 ▲兵庫十七錢 ▲東京七十二錢 ▲兵庫二十錢

市場雜觀

曇り一時雨

▲十二月九日

仁川米豆取引所

八日の二月限

北濱たより

▲紡績株活動

◆意外の大取組に上 ◆裏面の暗合 ◆的買退く ◆押目を待つ小掬 ◆米は已に準備を終 ◆賣餘地存す ◆當月限の渡し ◆限月繋米

仁川米豆取引所仲買人 三巴仲買店 仁川港仲町三丁目 電話 二二一、二二〇、三四番

仁川港仲町三丁目 大仲買店

大阪期米

▲八日後場 ▲當限付 二十円三十九錢

仁川米豆取引所

八日の二月限

◆連絡船上陸客 七日午前釜山入港新羅丸二等客

[illegible]

故大山元帥の銅像

愈々參謀本部構内に建設されん

故大山元帥の銅像は井口大將以下陸軍要部の人々が建設委員となつて既に製造に取かゝつたが緊要の建設地選定が困難で暫らく決定しないでゐた、夫れが爲め世間では銅像までが

◇薩長二閥の勢力爭

ひとなり宙に迷つて居ると噂して居た右に就き當局の談を聞くに始め建設地を同省裏門で經理部左方の一角を以て是れに充て銅像は三宅坂に向ひ北面して建つることに決定した所、技師側から故障が出たと云ふのは銅像を北向に建つるは見ばへがせぬ上に、北風を受くる爲正面には早く赤銹が出易いのみならず

◇坪數が狹隘に過ぎる

假に銅像の高さが一丈二尺ありとすれば其周圍は尠くとも之に三倍する空地を要し其上稍々した樹木の背景が必要であるとの抗議であつた、構内は建物が込み合つて居るのに技師の云ふが如き坪數を割くことは不可能であるので第一の選定地は右の如き事情から沙汰止みとなつた、其處で上野といふ説もあつたが宮内省の關係が

◇至極面倒であるので

別に交渉はしなかつた、又靖國神社境内と云ふ説もあつたが戰死でないから縁がないと沙汰止みとなつた、次に交渉したのは明治神宮外苑であつたが同所では種々協議は遂げた樣であつたが「外苑に銅像はいかん」と云ふので交渉破談に及んだ、そこで最後に至り昨今漸く内定し、參謀本部構内で此處は既に建設位置の

◇實測も濟で居る、最

も本部正門の高處には故有栖川宮大將の銅像が建設されてあるから元帥銅像の位置はそれよりも遠く離し高さも宮の銅像より低く製造することになつて居るとのことである(東京)

特產市場閑散

支那商賣惜む

過般來特產物市價は漸落を示し銀貨亦た久しく保合を持續して突飛なる暴騰を現はすべき強材料なかりし爲め特産市場は漸く活況を呈せんとし一方漸次出穀の增加を來たし之より捗々しき輸出商談を見る可き氣配を示したるが目下市況は依然極めて閑散の狀態なり之れが原因は支那商の賣惜むにあり特產氣配は内地方面一向大したる變化を見ざるも猶輸出の餘猶あるより支那商は見送りて商談成らず尤も本年作柄は結局減收を免れずして出穀商も例年より減少すべき豫想にして且つ昨今の暖氣にて道路の如くならず一般支那商は思惑を離れ得ざるの情態なるがさりとて内地方面氣配轉換を來たさゞる限り市價の高騰を見る可からざるより結局支那商の思惑違ひとなるに到るべし而して最近内地及び米國に於けるカストル油需用增加し製油界は益々發達するより滿洲大麻子、小麻子、蘇子等の製油材料は著しき輸出を見價格暴騰して茲數旬に於て百斤に就き二三圓方の高値となり十一圓二、三十錢を唱ふるに到れり(奉天)

露寛城子驛近況

長春が迅速なる發達を遂ぐるに從ひて勢ひ衰微に傾き居たりし東支南部支線露寛城子驛は近來稍々販ひ居れるが、同地は人口僅々八百に出でず其のうち露兵士三百人東支鐵道從業員及び其の家族を合して三百人邦人わずか數名の小部落に過ぎざるも近來大豆期節に際して例年になき賑ひを呈し居れり其の原因を聞くに奥地より馬車輸送によりて持ち出す大豆雜穀類は在來は殆んど長春驛に於て取扱はれゐたるが近來に至り長春城内に於ける大仲買連が五人までも長春城内を通過して苛税を課せらるゝの不利益なるを悟り寛城子に支店を設け露國鐵道附屬地内を通過するのみにて直ちに同地滿鐵連絡ホームによりて南送するの有利なる方法を講じたるによりて、ため目下日々百車前後の大豆、雜穀類を持ち込み居れり(長春)

公主嶺近況

長春驛を南下する事約一時間三十分にして主公嶺に達すべし、同地は其の昔し露西亞より滿洲鐵道を帝國が繼承せる當時は同線最北端の主要驛なりしなり、其の後長春驛の出現となりたる後は昔の餘勢により現在日本人二千二百支那人三千六百を有する市街を形造し目下我が滿洲獨立守備隊司令部、騎兵聯隊、滿鐵產業試驗場等ありて滿鐵長春間に於ける重要地たり、本年一月より電燈株式會社起り現在の點燈數四千個に達し尚申込盛なるより發電機增設の必要を感じ居れり、同地は東に伊通縣、盤石縣等を控へ西に懷德、長嶺の兩縣あり、之れ等各地の輸出入貿易の中繼地として知られ主公嶺一箇年の吞吐する輸出入品は實に一千五六百萬圓に達し特產物の輸出量而已にても十三萬噸を算すべし同地は地味至極豐沃なるが上に滿鐵會社の巨費を投じたる彼の產業試驗場ありて農業牧畜等を企てんとする者等にはこの上なき好指針となるを以て將來同地方に於て盛に產業の起る事なるべし(長春)

本溪湖火入式

本溪湖煤鐵公司にては這回大倉男來着と共に第二熔鑛爐火入式を擧行すべし從來の第一熔鑛爐にては一日百二十噸の製鐵ありしが更に這回の第二熔鑛爐にて年額十萬噸を產出すべしと

平壤金塊移出

前年同期より減少

客月中に於ける平壤金塊移出額は十三萬四千六百圓にして内朝鮮銀行平壤支店の發送に係るは三十四貫八百三十二匁價格十三萬三千九百十七圓を占め居れるが是れを前年同期に比せば十六萬六千七百圓の減少を見たり其主なる原因は黒鉛鑛の時局の影響を受け頗る有利なるに反し金鑛は爆藥燃料の採鑛必需品暴騰したるに生產品の價格は黒鉛の如く時局影響を受け變動する事なく一定不變なるより鑛主は現今採鑛するの損耗多きより打算し作業を中止せざる程度に採鑛しつゝあると藥品の騰貴よりして自ら精錬するの幾分利得なるを知るも實鑛するの繁雜なる手數を省くと共に、より久原等に賣鑛するもの尠からざると今一つは昨年の冬期暖かく、且梅雨期短かりしに反し本年は寒氣永續し梅雨期長かりしも產金額減退の因をなせり其他年額二百萬圓を產出せし遂安金鑛の產金を鮮銀平壤支店に搬入し居るを過般雲山金鑛の金塊輸送中遭難せるに鑑み輸送中の危險を慮り小包郵便にて内地に移出するに至れるに由れり尤も昨年に比し本年に於ける產金額は近來になき多數を示せるものにて平年に比せば何等本年は減少し居らざるのみならず賣鑛をも合せば多少は增加し居るものゝ如く又資本の潤澤なる鑛主に於ては採鑛せる儘鑛石を貯藏せる向も少なからざれば何等悲觀すべき傾向にあらずと(平壤)

安東より

▲豈に本紙が鴨江材に就一言致候吉林材に對し遜色ある樣に傳へ候處其の後某方面より鴨綠江材即ち安東材の吉林材に比して遜色ありしは事實なりしも本年頭初より安東材の製材方法稍々改良の點ありて見る目下大に面目を改め此の分にて押し進まば吉林材と比肩して讓らざるまでには至るべしと仰せ越され候、鴨江材界は勿論安東の爲め慶賀に堪へざる儀に御座候同時に某氏の期待に裏切らざる樣衷心切望罷在候。

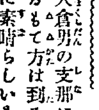
▲近來鮮人の滿洲移住多數なるは雜誌子の報せし處にて極めて明瞭なる事と存じ、案ずるに鮮人の移住は自然の趨勢にして是が助長の方策は緊要なる問題と存候、翻つて滿洲に於て見んか南滿洲人は愛琿三年來北へ北へと進入し今や吉林黒龍江兩省方面に移住し不毛の原野開墾に從事しつゝあるは顯著なる事實にて有之候、而して南滿人の北進も亦鮮人の南滿移住と何等異りたる點を兩者の間に發見し得ざるは等しく自然の趨勢とこそは存候。

▲南滿と云ひ北滿と云ふも彼れ等轉住の支那人に對しては經濟上何等大差あるにあらず南滿も一毛作北滿も亦一毛作なるのみならず人口增減の差は直ちに地價に現はれ南滿に比し北滿の地價は極めて低廉なるを以て寧ろ經濟上彼等の北進は有利有益にて候、是れ鮮人の南滿移住と同一轍たる次第にて有之候、

▲此の趨勢は近來益々著しく相成候にも拘らず鮮人の南滿移住は南滿人の北滿移住と同一の點[illegible]ある爲め種々[illegible]南滿の農家は[illegible]せざるの狀態なるは[illegible]方法を講ずるは[illegible]と存じ候。

▲而して滿洲に於ける鮮人の狀態を顧るに内地人として經濟上[illegible]つて以て利用すべき[illegible]るにも拘らず鮮人に對する諸設備多少遺憾の點あるやに見受けられざるにあらざるは[illegible]人のみに止まざるべく存候、是等[illegible]機關に[illegible]ざるべくと存候、然れども是れを利用する[illegible]就いて張例せんか、東拓の鮮銀等と[illegible]便なる地位にあるは内地人に多く利用する[illegible]して鮮人に尤きは彼等企業者が有意識に出でゝ是れに[illegible]薄くするにあらずして[illegible]に其處に到達するを今一ッは鮮人を理解するに比較的困難なるに依らずと存候、故に一般鮮人は不已得不利の地位に立たざるを得ざる羽目に陷り可申候。

▲此の際鮮人を理解するに至便なる有力なる金融業者の滿洲進展を希望せざるを得ず、是れ自然の趨勢を助長し國家の進運に伴ふ至當然の行路なるべくと存候



▲大倉男の支那に於けるもて方は到る處實に素晴らしいもので奉天から北京の往復にも大同府への京綏鐵道でもすべて支那から特別車がついた▲それに天津で大倉男の關係ある新らしい紡績會社と皮革會社を視た時の如き停車場では支那の兵士が捧銃の禮をする始末▲その間を絶れず『君が代』の奏樂が軍樂隊で吹奏されるとはなか〳〵のもて方▲殊に北京の六大銀行が日支儲蓄銀行支那人の謂ゆる殖業銀行の成立を兼ねて男を招待した時には那桐公始め二百餘名の日支の名士があつた▲座には當時支那第一流の名妓梅蘭芳が天女の舞に因むだ芝居を見せた▲次いで曹汝霖氏の饗宴は官邸内の傳心殿で催ほされその他段祺瑞氏、交通次長、日本公使館の[illegible]、吉澤參事官等の招宴で殆んど廿二日から九日までは晝夜引つゞいての饗待攻めに會つたさうな▲それに支那人は男が日支合辦の事業を興すので獨り日本のみならず支那にとつても大事な實業家であると感謝してゐた相な▲ところで男の健啖は驚くの外なく御馳走を方附ける事に於ては支那の壯年者でも一歩を讓ると感心して居たといふ▲奉天ヤマトホテルの男は常に食事なども書生などゝ一緒にとつて居るが時としては印判屋の男とでも互に盃を擧げて大に健脹を祝し合ふさうな(奉天)

江畔凡語

▲正金の滿洲に於ける金券及び金庫事務を鮮銀をして是れに當らしむると云ふ事は極めて短兵急にやつて來た爲め一寸面喰つた連中が多かつたのも無理のない事だ▲が又仔細に此の經過を觀察すると何人でも遠からず經濟の統一は實施されるものと云ふ事は暗々に覺悟の臍を固めて居たには相違ない▲處で安東の正金では鮮銀へ引繼ぐものはサッサと引繼ぎ殘る所の爲替事務だけでは堂々たる正金が態々出張しなくつても事は足りると云ふ見地から▲十二月末日で金庫事務を引繼ぎ次第引揚げる事になつて來た▲で是れでは安東の經濟界に及ぼす影響が甚大であると云ふ立論の下に安東商業會議所では急遽協議會を開催して正金銀行へは勿論の事大藏外務兩大臣に宛てゝ引留めの陳情書か請願書を出した相だ▲凡語子熟ら惟るにだ、成る程正金の支店がないよりはあるに越した事はない又折角あつたものをなくされゝば何やら物足らぬ心地のするのは誰でも同じ事であるがされば云ふてだ▲契に東拓の滿洲進出で不動產擔保長期の貸出を讓り今又金券發行や金庫事務を鮮銀に讓つた以上は正金は已むを得ず本然の性質に復歸せねばならぬ事になる▲元來が滿洲に於て邦上の仕事を正金がやつて居たのは日本が滿洲に於ける經濟上の立脚地が極めて微弱であつた其の過渡期に於ける一種の應急策で變調で例外である▲だから日本の經濟上の立脚點が強固になれば從つて此の變則なるものは退ひて正式のものが現はれて來るのが順序であるから▲或は一時不便不利を感ずるからと云ふて何年でも變則なる生活を續けて行きたいと云ふのは一寸受取り兼ねる處又正金としても折角引止めて貰ふのは難有いには相違あるまいが迷惑に思はれる所もあらう▲此の邊は何とモ少し判りの早くなる樣な方法はないものかしら、と云へば甚だ同情のない事を申す輩であると思ぼすかも知れないが現在の社會とやらではペテン外交と名付けて居るとの事でムる▲乃でモ一度凡語子が思ふに世の中で美しい言葉體裁のいゝ辭を振り蒔いて其の內容は反對であると云ふ樣な事は一時隨分流行つて居た相だが當節ではその手は古い、イヤそんな閑つぶしの時間はない筈だ▲お互に理解がなくつては百年話したつて其のつまりが付く筈のものではない否お互ひの交涉が圓滿に運ぶものではない宜しく誠心を相手の腹中に措いて利害の一致點を見付けるがよかろうと▲マア要するに『嘘で固めてお世辭でこねて』的の事は隙で困る人の道樂にでもやつて見る事で滿洲などでもセッセと働いてる否働かねばならぬ人たちはやらぬ事(安東)

◎浄瑠璃研究會 今回同好者にて浄瑠璃研究會を組織し十日午後六時より初會を浪花館にて開く由出演順次の如し

京天紅 南北 酒屋(寶登) いざり綱(見花) 紙治 松嶺 月吉丸(帛月) 合邦辻(山若) 三味線 澤龍米

◎彌生會忘年浄瑠璃會 彌生會にては九日午後六時より龍糸の紙帳を披露を兼ね忘年浄瑠璃會を催す由語り物次の如し

鈴ケ森(八百子) 八陣八ツ目(寶枝) 龍樂上使 十(友笑) 三勝酒屋(進司) 日吉丸三(めばに太) 十一(一歩) 鳴門八(しづか) 寺内住家(寶) すしや(寶登) 阿漕浦(山若)

正誤 十二月七日附本紙掲載京城電氣會社電燈料金表廣告中從最低料金及附屬器損料中『二十錢』とあるは六圓五十錢の誤りに付訂正す

公告
大正六年(千九百拾七年)拾月廿參日横濱市山下町武拾參番地[illegible]山鑛業株式會社支店ニ開カレタル臨時株主總會ニ於テ次ノ通リ決議候ニ付公告候也
ウエストバージニヤ州ノ法律ニ依リ成立セル法人タル[illegible]山鑛業株式會社ハ今般解散シテ事業ヲ[illegible]法人設立免許狀ヲ同州廳ニ返付スルコト
大正六年(千九百拾七年)拾月廿四日
社長 ゼー、アール、ゲーリー
書記役 ゼー、ピー、ヘンリー

謹告
京城南大門市場内大成號主務千仁[illegible]は今般都合に依り辭職致し本號とは何等關係無之候に付御了知被下度候
大成號主務 朴金成 白

印鑑紛失廣告
右は從來弊店にて使用致居候處去る十一月二十日午後四時[illegible]に於て紛失致候に付今後無効とす此段謹告候也
大正六年十二月
京城南米倉町八十八番地 出店 齋藤久太郎 (久太郎)

至急謹告
[illegible]國金地金輸出禁止の發表以來原料一時[illegible]製品遲延勝の處今回[illegible]御注文に[illegible]何卒倍舊の御高命賜り度希上候
仁川 糸岐商店 電話三七〇番 振替京城七一一番

期米 大阪堂島米穀取引所仲買人 曾我商店

溫陽溫泉 高等旅館向貸家 階上客間六室 階下客間四室 附屬部屋四室
右先般來改築中の處今般落成致候に付旅館營業御希望の御方に至急貸渡度此段廣告候也
株式會社 溫陽溫泉

◎朝鮮名物◎ 金剛山 京城本町 電話二七四七五番 龜屋

忘年會新年宴會は破天荒の大勉強仕候間多少共御用命仰付被下度率願上候
京城本町二丁目(元千代本)跡 梅の家 赤星きみ子 謹白 電話七三四 七三五番

十二月一日ヨリ 福引景品附大賣出し 一圓毎ニ呈上 本町 すやま呉服店

胃腸病と其療法 村井弦齋先生發見
胃腸病には色々な種類がありますが其多くは胃腸が擴張して伸び縮む力が弱くなり食物が滯り胸が張り苦しく心惡くなり嘔氣を起し瓦斯が溜り便秘となり下痢ともなるのです然るに普通胃腸の藥は胃液を中和するだけで根治の妙藥がないのですが村井弦齋先生發見のタラコンは胃腸の消化作用を助け輸送機能を活潑にし食物が胃に停滯しません、其證據は胃を洗滌すれば明かに實見することが出來ます又タラコンの一種は激烈なる刺戟は生じた粘膜の如き異性物を溶解しますから胃擴張其他如何なる重症にも靈驗卓效あることは幾萬千の實驗者に依て證明せられて居ります特に胃擴張には驚くべき效果を奏します、昔は之を服すれば子を有すること廿人壽を得ること三百歲と稱し益氣補精の靈藥としたので無病の人も久しく連用すれば老に耐へ壽を得ます◎藥價煎藥一週間分一圓二週間分一圓九十錢◎散藥廿八回分五十錢六十回分一圓送料各卅錢 ◎本舖東京市小石川區下富坂町二十 無盡藏藥園(振替東京貳〇〇貳壹番)

◎年拾割 金の利を每月收得法
未だ世に無い新案製品は理化學應用の的に面白く實用品にして原料を集し是れを販賣すれば確實に收利し得る方法を詳細なる說明書にして送る
勿驚年拾割內外の利を每月
東京市本所區小梅町一一五四 日本絹硝子製造所

甘黨の福音
世界の名山 金剛しるこの賣出し
現代理想の家庭公園 ダリヤ喫茶店は
京城の中央本町二丁目 電話二八九四番

足袋は山西製に限る
山印大阪足袋は各勞働者諸彦及一般家庭の最適當用にす
◎粗惡なるにせ物あり山西製山印に御注意
◎販賣御希望の方は御照會あれ相場表進呈す
大阪西區京町堀通二丁目 振替口座大阪一〇五番 山西大阪足袋本店
登錄商標 山印 試驗品 コールテンタビ
是非一度履いて其の價を知られよ 四枚コハゼ裏 見本一足(送料共)前金六拾五錢
常に見本一足五枚甲馳(送料共)前金六十錢 外縫厚底 前金七十錢

產科 婦人科 京城壽町 電話一二〇一番 二宮醫院 醫學士 二宮亮吉

▲入城[illegible] 中限二十圓十錢先限十九圓八十五錢と七錢高に寄付たる賣物多く一錢と押し三錢跡大阪變はらざる入

▲[illegible]四節 [illegible] 錢四錢三錢四錢三錢三錢一錢二錢 三錢二節八十四錢五錢四錢三節四 錢四節八十四錢五錢四錢五錢四錢

平均値段	
一節	十九圓八十三錢
二節	十九圓八十四錢
三節	十九圓八十四錢
四節	十九圓八十四錢

[illegible]七日午後十一時[illegible]入港[illegible]丸

竹村[illegible] 若[illegible] 松久鳳、安武徳平、秋岡てる子、牧乃樽一、[illegible]十太郎、同艶子、鈴木佐太郎、同すま、同桃代、同使夫、小山順藏、城山保四郎、投野鍵太郎、稲近元、中島司、秋田野、石川喜太郎、石倉[illegible]

(一二等客)宮木貫一、市川模、外人四名(二等二十五名)内山繁一、馬場くみ、小林博愛、堀康三、今村喜三郎、同竹二、西田初太郎、不田恒四郎、三好喜六、渡邊信、勝部鼓太郎

●[illegible]物は對『氣味の惡るいものは』 同十一日 同十二日
●『師走こかけて』 同十二日 同十三日
●『一口噺其時々の挫』 同十三日 同十四日
●『下旬付 拶金は』 同十四日 同十五日
又は同好の見通告者には五十錢を呈す但何書何號を明記に限る ▲宛名は京城日報社編輯局文藝係

報豫 [illegible] (十二月八日正午) [illegible]

左甚五郎

第百七席

桃川如燕口演
浪上義三郎速記

九助が訪れる聲を聞いて女房おふみは其處へ出で ふみ『貴下は何方から御出で』 九『イヤお内儀さんお忘れですか、俺は過般此方へ來て宿の無心をした旅人でございます』 ふみ『オー然うでございましたね、何んで賊の家へ亦お出になりました』 九『俺は御主人に少しお話しをしてねことがあつて來やしたよ』 ふみ『夫は病氣で臥床て居ります』 九『ハア病氣で寢て居ますかそれは氣の毒なこと、何にしろ話してねことがあつて來たと然う云つてくんなせえ』おふみから聞いて寢て居た主人はガバと起上つて脇にあつた刀を取らうとする、是を見て九助が 九『おゝ若し御主人、決して心配をしないが宜い、何にも俺が訴人をして役人を引張つて來た譯じやア無い』 主『そんなら何の爲に來なすつた』 九『あの時、お前さんから貰つた刀何んといふものだか知らぬが大層好い刀で賣た處が八百兩になつた五百兩は國へ送つて三百兩の金を持つて來たが、貴下に上げるから何うぞ納めておくんなせえまし』と胴卷より取出したる三百兩の金子其處を見て主人は暫く呆れ無言で居る、暫くして 主『世の中に正直な人があればと云つてお前位の人は無い、聞けば國へ歸ると云いなすつたが國は何處だね 九『能登の七尾でござゐます 主『七尾と云つても廣いが 九『七尾在の三崎村といふ處で百姓久右衞門の倅で九助と申しやす 主『其の九助が今まで何處に居なされたので 九『俺の阿袋が亡くなつて二度添が入りました、間もなく女の子が出來た、俺が爲には義理ある妹、處で義理ある阿袋は俺を邪魔にする故、家を出て上州の桐生へ行つて佐野吉左衞門樣の處に奉公して居りましたまる十年勤めて百兩の金を拵らへ國へ歸つて田地を受戻し親父の跡を立てやうと思つた處、其の金は貴下に取られ再び桐生へ歸りましたが、お貰ひ申した刀が先刻お話し申した通りの次第、何うぞ此の金は取つて置いて下さい 主『お前の親切は判りました、就てお前に兄貴がある筈だが 九『其の貴兄は久太郎と申しやして俺が七歳の時でありましたが、家出をし何處へ走つたか未だに行衞が判りません』と聞いて主人は傍にあつた刀を抜いてガバと我が腹へ突立ゐ、是を見て九助は驚き 九『ヤア何で短氣なことをしなさるのだ 主『イヤ決して短氣で無ね、何を秘さう俺はお前の兄貴の久吉郎だ 九『それではお前が小さい時に別れた兄さんでありましたか 久『性來孩兒の内より手癖が惡く、種々惡事を働いて村方にも居ることは叶はずトゥ〳〵三崎村を立退て先から先を渡つて歩き、此處に居るおふみも途中に於て誘拐し無理に此處へ伴て來て女房とし此原中に十有餘年惡事を働いて居たが、天の罰か半身不隨の此病今此處でお前に遇のも我が惡事を悔ひよと云ふ聲へであらう此の上お前に頼むのは此のおふみ自分が女房を貰めるでは無ゐが心立は良いもの、何うで國へ伴れて行つて面倒を見てくれ 九『俺が爲には義理ある妹決して粗末にはしないから心配をしないが宜い 久『それを聞いて俺も安心をした、何分頼む』と云つた儘絶息は絶れてしまふ、涙ながらに取片付けをして此の家を燒てしまい、九助は娘のおふみを伴れて能登の七尾へ立歸り田地を受戻し、妹に跡を取せ九助とおふみけ分家をいたして生涯を安樂に送りましたが、拐此の紀州家に納まつた眞長光、是に飾がない、此を彫せるには誰が宜いかと大納言侯御家來に御相談になつた、その選まれたものが湛野正瑞でございます

毛皮なめし並**仕立**
鳥獸剝製調進羽根布團製造修理
毛皮類高價買入 京城本町二丁目
貿易商 **樽元商行**
電話[illegible] 振替[illegible]

無病長壽を希ふ人ありや
然して津村兄弟商會の
人蔘エキスを
知らざる人ありや人蔘エキスに
親しまる方は一生健全也
京城本町一丁目電話一四〇八
津村兄弟商會

花柳病専門 外科
◉梅毒◉淋病◉痳病◉泌尿生殖器病
◉睾丸病◉痔瘻◉肛門病◉皮膚病
◉婦人病◉神經衰弱◉ヒステリー
606
京城南大門通農工銀行裏
司生堂醫院
電話三〇六五番

暦
十二月十日 九星
舊十月廿五日 丙戌
本命五黄 八方閉 大安
[illegible]

演藝案内

大正館 櫻井町 電話八七三
日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店
十二月七日より差替への大寫眞
[illegible]

有樂館 電話[illegible]
早川演藝部直營 活動寫眞常設館
十二月七日より[illegible]
◉新派悲劇『煙火』全百二十場
[illegible]

浪花館 明治町二丁目 電話二六〇番
九日十日昼[illegible]
◎忘年素人淨瑠璃會
○入場無料○ 主催 彌生會

黄金館 電話二六三七・二六六
[illegible]
◎奇劇幻術『能王丸』四卷
◎連續『赤い目』第一篇第二篇上映
◎新派大悲劇『五大力』(全三卷)
[illegible]

流經新藥レスノリン
月經流經
閉止四五ケ月以内に於て本品の確實作用には其効果他藥に優越す
近郵切手添申越進呈
一瓶壹圓廿錢
發行所 大阪北區曾根崎上一丁目三六地 **常盤藥院**
振替大阪[illegible]

ルーデサック 特製品
[illegible]
京城黄金町三 山田文殊堂藥房

朝鮮鑛石學及探鑛法
安藤善四郎著
▲有用鑛石鑑定表、朝鮮鑛業令▲
▲本文には探鑛法、鑛山發見法、石分析鑑定法、各道地質鑛脈、鑛山所在地
▲鑛物一切に關する初學者にも一讀了解し得る探鑛者諸氏の是非讀むべき當業者の參考書也と信ず
四六版二百五十頁 並製壹圓貳拾錢 上製壹圓四拾錢 送料六錢
發行所 京城本町二丁目 ウツボヤ書籍店

朝鮮漢方藥料植物調査書
朝鮮總督府編
▲本書は公にせらるや學校、病院、醫生、藥店植物採集者より大好評を以て迎へらる
▲漢方藥料植物の原名の外鮮名、効用、産地には用法漢藥價格表を付す朝鮮に於ける唯一の藥用植物書なり
四六版洋裝 定價九拾錢 送料六錢
發行所 京城本町二丁目 ウツボヤ書籍店
賣捌元 京城日報社代理部

殺菌・消炎の力に富める
効力五倍以上の
クラブ齒磨

クラブ齒磨は帝國醫科大學、各醫學專門學校を始め醫學者間に於ても理想の齒磨として推奬せられつゝあり

化學的に齒を強く美しくする
天下一品の……クラブ齒磨

クセニナラズ よくつうじる
健通丸

▲健通丸が重要視せらるゝ譯
▲便秘症の人は胃病を起し腦を犯され頭痛に罹り或は婦人病を重らす抔其害毒は甚だ恐るべきである
健通丸は此恐るべき便秘症に對し驚くべき効能を有するが故である
各地藥店にあり

本舗 大阪市 調劑 參天堂藥房

京釜線(南行) 同(北行) 湖南線(南行) 同(北行) 京義線(北行) 同(南行) 兼二浦線 仁川線 京元線(北行) 同(南) [illegible]

京城日報　第五版　九日朝刊（朝夕刊併せて八頁）

支那漫遊

懷古の安賓

蘇峰生

南京の市街は勿論、其の附近の郊外、何れも自動車を驅り得可き、好道路也。予が十二年前、孝陵に遊びたる節は、轎に乘りたれども、今は馬車にて陵下迄來るを得たり。是れ一に民國政府の賜也。革命後の成績としては、道路の修理を以て、第一に指く可きが如し。

但だ明の宮闕の故趾に群集したる滿城、即ち滿洲旗人の部落は、今は見る影もなく畑となり、唯だ斷瓦殘礎の遺跡に、狼藉たるを見るのみ。是れ實に第一革命の際に、破壞せられたるものと云ふ。滿人に對する、漢人の反抗の結果としては、餘儀なき次第ならむ。明の宮闕の中心には、今は粗末なる木造ペンキ塗りの博物館を作り、其中には各種の石碑、磚瓦、若しくは其の斷片等を陳列せり。方孝孺の鮮血の痕を留めたるものと稱したる、五龍橋邊の踏石も、今は此處に安置せらる。唯だ舊觀を改めざるは、明の宮殿の巨大なる礎石なれども、それにさへ民國幾年とかの文字を刻しあり。此の荒涼、破壞の中に於て、獨り明の太祖の孝陵のみは、先づ十二年前の通り也。但だ當時は夏期にして、今は初冬也。陵上に簇立する櫟や、楢は、僅かに微霜を帶びて、其葉疎黄なるも、野菊は金の如く、蔦は錦の如し。懷古の情を促がす背景には、何等の不足なき也。惜らくは南京城壁、三十二哩內外、其の一塊の土、一片の石、何れも歷史ならざるはなし。是れ吾人が單に孝陵に對して、容易に懷古の安賓を做す可らざる所以也。

大正六年十一月九日午前八時

李督軍

予等は孝陵より轉じて、督軍衙門に進けり。是亦た近くは、長髮賊の太平天國王洪秀全の十數年間、僭宮を構へたる跡也。提軍李純氏は未だ五十に達せざる可し。何となく袁世凱と、馮國璋とを、捏ね交ぜたる如き容貌也。如何にも擴揚らしく、而して一點の隙間もなし。應接にかけては、何れの支那人も、固より如才のある可き筈なし。談話の要は、茲に記せず。但だ世間にては、氏が李烈鈞と通謀し段祺瑞に反對し、江蘇獨立の旗を揭ぐ可しとの評判なれども、予の所見にては、氏は決して容易に動かざる可し。蓋し長江一帶の三督軍は何れも、馮國璋派の調和解決を望み、段祺瑞派の武力解決に賛成せず。されば其の外形に露はるゝ所は、何れも皆な洞が峠の日和見に類するものなからず。されど今日に於て、支那南北の平衡を把持するものは、實に此の長江一帶督軍諸氏の力と云はざるを得ず。李督軍の如きも、若し勗めて止まずんば、中央政府に於ける一の大立者たるの日、未だ必ずしも期す可らざるにあらず。

秦淮

予等は督軍衙門より、秦淮に赴けり。茲には待ち合せ居たる日清汽船の羽根田輝氏と會し、一同畫舫に棹して、利渉橋邊に赴き、舫中に於て午餐に有り附けり。畫舫中には、卓あり、椅子あり、榻あり。賭博公開地にして、亦た美人の本場の一也。畫舫は支那人に取りては、食、色、賭三者を併せて滿足せしむ可き、最好の機關ならむ。予等は唯だ前の一に安せり。江淮は蟹の名產地也。『黄菊花開紫蟹肥』とは實際を道破したる好句也。吾人は已に江南の秋色を賞し、更らに江南の霜蟹に饜けり。斯遊奇絶、眞に平生に冠たりと云ふ可き矣。秦淮の水は、東京柳橋下の水よりも汚れたり。兩岸概して教坊也。隨處に四手網を下し、頗る畫舫の往來を妨ぐ。利渉橋は乃ち桃葉渡也。今は桃樹なくして、楊柳多し。然も復た鍍救齋の『丁字簾前是六朝』の風情なきにあらず。一飽の後、去りて貢院を見る。乃ち南京に於ける進士の試驗場也。看來れば僅かに人の直立に耐ふる低き、棟割長屋重疊として、宛も戰時の廐に似たり。而して幾千百の俊秀は、徵發軍馬同樣、此の僅かに膝を容れ、身動きの出來る丈の餘地の壁內に、孤囚となりて、若干の日を數送らざるを得ず。名文を草する迄もなく、大抵の者は、神經衰弱に陷らざらんとするも、能はざる也。慶柴所が、明太祖の八股文字を以て、士を採るの法を設けたるは、秦皇の焚書、坑儒よりも、其罪を世に[illegible]との論、未だ必ずしも[illegible]可らざるが如し。然も[illegible]は已に撲廢して、他の一方も恐ら[illegible]たざる可し。

清涼山

予等は貢院より、市中を散步し、端なく其の序に古書肆を素見して、端なく吉田松陰の一書を得たり、之を披き見れば、予が舊著『吉田松陰』の支那譯にして、光緒二十九年の出版也。然も卷末には板權所有の標記あり。固より譯者の拔擢也。而して更らに予が『單刀直入』も、改名の上、出版せられたることを、其の卷尾の廣告文によりて察せらる。予は兎も角も記念の爲め、購ひ還れり。去りて清涼山に赴き、掃葉樓に上れば、日已に晩れんとす。乃ち樓後より頂上に到れば、南京の大觀は、此に盡くと云ふも不可なし。莫愁湖、雨花臺、秦淮の楊柳、長江の白帆、鍾山、覆舟山、皆な指顧の中にあり。清涼山は、孫權石頭城の故趾也。山腹に一株の紅葉あり。何の樹たるを辨せず、但だ人を惱すの秋色、多きを須ゐざるのみ。予等は他かぬ眺めを、名殘り惜しくも、暮色と與に山を下りて、領事館に赴き、高尾領事晩餐の馳走に預り、歸途に就きたる時は、儀鳳門已に閉ぢて、纔かに護照によりて、開門を得、旅宿せり。

概言すれば、此頃の南京の誇りは、野菊也。野菊は、朝鮮にもあり、滿洲にもあり、北支那にもあり、長江一帶の地にもあり。されど南京に於ては、野菊滿地、道路亦た磐し。眞に黄金の茵を敷きたるに似たり。而して五十哩もある古き城壁の磚瓦の際より、長く瘦せたる風雅の枝に、細き黄輪の咲き溢れたる、如何なる名手の丹誠になれる、懸崖作りの鉢栽も、恐らくは此に若かざる可し。

江左風流跡渺茫。明時宮闕亦荒涼。秋光十里金陵路。野菊花開細細香。

大正六年十一月九日午前八時、方さに鎮江に向はんとする前。南京城外惠梅ホテルの一室に於て

朝鮮古墳の變遷（七）

八木奘三郎

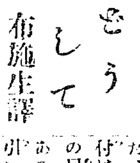
附 横穴住居說

横穴は鮮地になし、然れども古記に見えたる窟室記事は猶此のものと關係なしとは云ふ可からず。殊に扶餘の石槨風に造りし舊墓の中には横穴ありと云へり。されば將來此種の問題世に起ることもある可く、假令其事なしとするも、槨槨に關連せる遺跡なれば茲に前二者と共に併せ說くことゝなせり。

抑も横穴に就ては日本の學界に種々の問題を生ぜり。其一は故坪井博士の住居說にして、次は喜田氏の壙穴說なり。而して今順序上前說より曰はんに、横穴は日本に於て概ね第三紀の山腹なる岩石中に穿たれ其多きは一箇所に百數十の群を成すものあり。是等は大抵其口の埋沒せるを常とすれども、中には古來入口の開かれたる類もあり故に此穴室を見て住居跡なりと信せし例は由來甚だ古し。然れども學理上より穴居說を主張せしは一に明治以來のことに屬せり。而して其說を公にせし學者は世に少からずと雖も、就中多く之を調査して屢々右を論せしは彼の坪井正五郎氏なる可し。蓋し氏が住居說を述べしは其理由一ならざれども要するに議論の歸著する所は古書の記載と世界各國との慣例上より見る可くして、斯は固より傾聽す可しと雖も、恨むらくは日本の横穴に住居を證す可き點なくして、寧ろ葬窟に用ひたる實例のみ多く存せり。故に予も氏の說に服せずして『横穴新說』の一篇を出せし事ありしが、爾來葬坑說は次第に勢力を加へ、今日に於ては復住居說を口にするものなし、但し予は多少舊說の變更を認めしも、其等は他日に讓りて、單に本題に關係する點のみを曰はんに、元來横穴葬坑說は先輩の學者往々之れを口にせしも、唯だ葬坑と云ふのみにして他は別に詳說せざりしなり。然るに喜田氏一度壙なりと斷せし爲め、右に從ふ者多く、反對者は未だ世に出でざるなり。されども予は之を壙と見ずして槨の性質に當るを至當と信せり。此事は未だ何人も云はざる點なれば左に少しく其理由を述ぶ可し。

横穴は其本源孰れに在るやを知らずと雖も、何にせよ支那の西南部に連絡を保つ一の住居なり、而して黄河以北は概して縱穴住居にて蒙古は專らテント生活を爲せり。蓋し横穴の類は之を住居に用ふる實例世界に多しと雖も、葬坑に使用せしものは日本以外に甞てなし。故に坪井氏の如きは其廣汎なる實例上より推測して住居說を主張せられし譯なるが、日本の横穴は其の中に造り付けの石棺あり、又何れの穴內も多くは開鑿當時の形跡鮮かにして[illegible]加へ、又は[illegible]く、而して[illegible]ず死者埋葬[illegible]葬坑說[illegible]然れども[illegible]より移[illegible]死體を[illegible]之を壙[illegible]可からず、何となれば壙は[illegible]穴にして埋葬と共に消滅す可き性質のものにて、其發達して石室となれる實例なく、石槨、甎槨の如きは皆な遺體に伴ふ結果として之を壯大にし、又之を裝飾する點より次第に進みて、ら右を家居風に造る例を生ぜり、此事古昔の[illegible]、又印度等の遺跡にも見[illegible]以て家居と槨棺の形狀には互ひに連鎖あるを知る可く、其實例より考定して横穴の如きは之を槨と見る可くして壙と稱す可からざるを知るに足らん、已に横穴は日本以外の地に行はれし際は必ず住居として用ひられ、其住居の風を死者神靈の安んずる棺槨の上に移せしもとは頗る人情に適ふのみならず、又古記と實例との上にも一致せるものと謂ふ可し。

さうして（八）



布施生譯

『そりや變ですな』武烈氏は應じたがしかし矢張り意を動かした樣子は見えなかつた『若しそうだつたら貴君方は一應お取調べをなさる必要がお有りでしやうな、無論私はそれに故障はありません、しかし！』言ひさして武烈氏は例の癖の頸を窘めた。

谷女はぶる〳〵と身を震はしたかと思ふと一足前に進出た。國栖ははいゝ此女何か辯解でもするのだなと思つたが不思議にも谷女は其儘又一足後に引いて妙に怯々した態の位地に引返した、阪探偵長はそれには氣もつかぬ樣子で改めて武烈氏に向ひ『一寸二階へ御足勞が願へますまいか、二階へお出下さつたら私共が當家へ參りましたのは單に淺墓な推測からでは無いと云ふ次第を色々證據を擧げてお目にかけますが』武烈氏は少しむつとした樣子で『いやそれは既に段證據を伺はなくても結構です、しかし何か大變な事でもあるのなら御望みに任せましやう、おい谷、その女の部屋は何處にきめておつたんだ』『はい、部屋はあの、二階の裏座敷に致しておきました』谷女は[illegible]老人の顏を[illegible]見て[illegible]聞かない[illegible]で[illegible]お[illegible]ちやんはお[illegible]のい[illegible]ございました[illegible]から[illegible]『武烈氏に[illegible]それは[illegible]そうに手を握つて[illegible]、[illegible]としてゐた[illegible]のた、[illegible]る途端に、[illegible]を[illegible]して[illegible]すさ[illegible]は今更[illegible]恐縮を察した顏で探偵長を見返り『貴君、其[illegible]樣をば[illegible]二階にさつき申す事は無いおやあ御座いませんか、窓[illegible]が引張けてゐたり、椅子が[illegible]返つてゐたりした事を貴君から[illegible]いてゐた[illegible]しまし[illegible]たら[illegible]もう[illegible]た其[illegible]もなく探偵長は[illegible]二階へ[illegible]つて[illegible]いつて任せつた『まあさうしやうこんな事にならうとは思はなかつた』獨語を言ひながら谷女は傍に國栖が控へて居るのは忘れたやうにさつさと其前を通つて二階へ上つた、國栖も猶豫なく跡に續いた。

つたのですから『言ふかと思ふと押止める暇も無く吐嗟に身を屈めて簞笥の抽斗を一つ一つと開けた、谷女は吾知らず驅寄つて身を楯に外の抽斗を開けさせないやうに繫ぎながら『貴方、惠美ちやんのやうな和しい娘は人樣の前に着物を擴げられるのは厭がるものですよ』阪は直に抽斗を閉めた『御通り』と谷女が言ふ前に小娘が口[illegible]から[illegible]事に『まあ』と言つて[illegible]押止める[illegible]『そら此通り、さうしても之は無理に作出されたものと見るの外はありません、着物を纏める暇も無かつたのですから』

（以下略す）

腕時計

十八金側　參拾貳圓　參拾五圓　四拾五圓　七拾五圓　九拾圓

銀側　[illegible]

ニツケル側　六圓

ニツケル側

ラヂユーム入拾壹圓

京城日報代理部

京城太平通壹丁目　電話長六六〇、三二六番　振替口座京城三二〇番

謹告

京城南大門市場內大成號主務千仁官は今回都合に依り辭免致し本大成號と今後關係無之候間本會と關係有之方は御了知被下度候

大成號主務　朴金成　白

最新刊

書名	著者	定價
愛山文集	故山路愛山	五、〇〇
路傍に遊びて	大庭柯公	一、三〇
大正六年朝鮮經濟年鑑	會議所	一、四〇
取引所論（上卷）	渡邊藤吉	一、五〇
刑法要綱	大場茂馬	二、五〇
英和化學工業語彙	大澤宗光	一、〇〇
國語のアクセント	佐久間鼎	八五
新式圍碁寶典 第一	五段鈴木爲次郎著	定價六十五錢
蘆花發句全集	村田朝野	一、〇〇
世渡り上手	川崎海侍	六〇
手紙文庫	岩切山詩	一、二〇
家庭小說 悲麗の家	小原日華	一、二〇
トルストイ傑作集	村上都人譯	一、〇〇
朝鮮の冬と防寒法	矢野國太郎	三五

大正七年當用、懷中其他日記、成慕贈答最適品の文房具及遊戲具ピンポンかるた等澤山揃仕候

大阪屋號書店　京城本町　電六八四・二〇八六　振京城二五七三

商業登記公告

[illegible]大正六年拾貳月六日登記[illegible]

京城地方法院

謹告

拜啓寒冷の折柄各位益々御清榮の段慶賀此事に候陳者每度御引立に預り難有仕合に奉存候却說弊店儀豫而新築中なりし店舖落成致し候に付き本日移轉從來の通營業仕候猶一層勉强御用命相伺可申候條何卒倍舊御愛顧の程偏に奉願上候敬具

十一月七日

京城永樂町二丁目

銘酒一鶴發賣元　本莊酒店

電話六五四番　振替口座京城六二〇番

期待渴望せられたる鮮譯國語大辭典出づ

鮮譯國語大辭典

文學博士 金澤庄三郎先生校閱

京城醫學專門學校敎授 文學士 小倉進平先生校閱

私立五星學校敎員 林圭先生校閱

京城女子高等普通學校敎諭 玄櫶先生校閱

京城高等普通學校敎諭 李完應先生校閱

船岡獻治先生著

本書は豫て我語學界に於て期待渴望せられたる大辭典なるが今回船岡先生が數人の助手を督し多大の歲月と多大の研究と加ふるに非常の苦心とを以て玉成せられたるものにして而かも萬一の遺漏を慮りて金澤博士、小倉文學士、林圭、玄櫶、李完應等の諸先生に綿密なる校閱を乞ひたるものなれば如何に其內容の完備せるものなるかは喋々を要せざる所其價格の如き實に菊判一千二百頁の大冊子にして僅かに二圓八十錢といふが如き目下紙價印刷諸費暴騰の今日殆んど印刷實費こ等しき破天荒の廉價なり船岡先生は夙に學を國學院に修め特に語學に造詣深く渡鮮後鮮語學に就て研讃せらるゝこと爰に年あり先生が渾身の努力を以て編纂されたるもの眞に大方の期待に負かざるべきを確信す

前金不要　豫約募集　內容見本進呈

豫約申込略規

第一 刊行期 大正七年二月下旬

第二 製本 菊判總クロース紙數約一千二百頁

第三 申込期限 大正七年一月卅一日迄に御申込の事

第四 豫約價 一時拂 金二圓八拾錢

第五 諸官廳學校に限り御支拂は來年度にても宜敷候　別に分拂規定あり御一報次第御送り致候

發行元 鮮譯國語大辭典刊行會

大阪屋號書店　京城本町　電話二〇八六、六八四　振替京城二五七三

豫約申込所

大阪屋號書店　釜山大廳町　電話二八九　振替京城四〇九五

景品附歲暮大賣出し

十二月十日より三十一日迄

金一圓每に景品進呈

御贈答品に萬人向の鶴屋の履物

京城本町二丁目

鶴屋履物店

電話一〇五二番

發行所 京城太平通一丁目 京城日報社　電話番號 編輯 二四五番 [illegible]　振替貯金口座京城三〇〇番
發行兼編輯人 奥田直毅　印刷人 小川三之介
本紙定價 一部金二錢 [illegible]　廣告料金 [illegible]

期米

[illegible]

●獨逸大軍を轉回す
露獨休戰の影響

獨逸は露國との休戰に依り同戰線より大軍を撤退せしめソレンタ、ピアヴ間にて益々伊軍に壓迫を加へ居れるが佛西部戰線にても英軍は其前哨地點に脅威を受けカンブレー地域より撤退する必要を生じたり然も尙英軍は今尙カンブレーにて獲得したる地方の一部を保持し且つ攻勢を執りつゝあり(倫敦電報)

●休戰と軍隊移送

露軍第六十七師團と獨軍第三十一師團との間に締結されたる休戰條件全文新聞に發表されたるが之に依れば休戰條件中には他の戰線に軍隊の移送を禁ずるの言句を含まず(倫敦電報)

●獨逸の講和基礎

(十二月五日倫敦發紐育サン)通信に依れば獨逸は西方戰場及び伊太利戰線に全力を集中し新年迄に大決戰を試み之を講和の基礎とす●●●●獨逸外相等の近來の演說には注意す可き變化を認む之等に徵するに獨逸は白耳義及びアルサス、ローレンに就き英國に滿足を與へ自ら本部歐洲に地歩を作り露國が協商側を賣りたるを名として總ての負擔を之に嫁せんとするものゝ如し(華盛頓電報)

●墺國の休戰公報

(十二月六日)墺國公報に依れば獨逸、墺太利、土耳古、勃牙利軍全權委員は五日露國委員と夫々の關係ある各戰線に亘り七日正午より十日間戰鬪を休止する旨の契約を締結し又同期間中に休戰制を終了するを得可し今日迄の交涉の結果を目頭にて報告する爲め各全權委員は數日間の豫定にて歸國したるも委員會は依然繼續す可し(ベルン電報)

●伊軍陣地占領さる

伊國山岳地方に於ける數個の伊軍陣地は獨墺軍の爲めに占領せられたり(紐育電報)

●高級警官養成

政府は今期議會に高級警察官講習所設置案を提出す可く通過の上は學識者司法官等より專任教授を任命し生徒は各地より募集す可し(東京電報)

●代議士再選擧

千葉縣下安房郡に於ける衆議院議員選擧投票無效となれるを以て折原千葉縣知事は內務省と打合せの結果八日の官報號外を以て來る十八日再選擧を行ふ可き旨告示したり(東京特電)

●金建尙早陳情
大連會議所活動

大連商業會議所にては七日午後四時より役員會を開き鮮銀の滿洲金融統一都督府の銀受入廢止に伴ひ近く大連重要物產取引所の建値も亦金を用ふるに至る可しと豫想し若し重要物產取引所に金建を採用するに至らば支那商人は爲替決濟の困難より奥地又は營口に於て取引を爲し大連港の盛衰に關し重大問題なりとて上京中の相生會頭に對し長文の意見書を電送し中村都督に對し金建時期尙早の陳情を爲したり大連商業會議所從來よりの持論として金建尙早を唱へ居れり(大連特電)

●正金存續電請

滿洲本金庫を朝鮮銀行に引繼ぐ結果旅順、安東、鐵嶺、遼陽の正金銀行出張所撤廢に關し安東縣商業會議所より存續運動應援を求め來りしが大連商業會議所役員會も之に同意し各地正金銀行出張所存續を井上正金銀行頭取に電請せり(大連特電)

●客月京城貿易

客月中京城出入重要品に就き當地稅關出張所の調査に依れば輸移出品價四十六萬九千八百七十六圓輸移入品價二百九萬六千七百圓…

●鐵道運賃整理

鐵道院にては先年貨物運賃の大整理を斷行して以來…定運賃と山陽線に於ける特別運賃制を剩すのみとなれるが時局の影響に依る鐵道貨物の激增は單に以て…政策を施し進めつゝ…々開放の歩を…なりと云ふを…等級は其品種の…的物品を一級と…種類、貴金屬類、火藥類等を區別し夫々取扱ひ居るが斯ては其運賃と國民の實生活との關係に於て…以外の一般食糧品を二級とし次は假りに昨年の取扱數量を基礎として槪算すると二千五百萬圓に…

●製紙開始は明後年から
工場建設費四百五十萬圓
藤原銀次郎氏談

新義州より歸東の途次八日夜入京したる朝鮮製紙會社專務取締役藤原銀次郎氏は語る

此行意外に永引きたるが其間二週間許を滿洲視察に費したるを以て新義州に滯在せしは、前後九日間に過ぎず、新義州に於ける用向は工場に買收せる敷地より用水の便否如何等、實地の調査を遂げ

△工場の設計 を爲さしめ並に新義州、義州、安東縣在住の方々に會社設立の挨拶を爲さんが爲めにて設計に就ては予が滯在中之が決定を與へ、直ちに之が設計に取掛らしめ置きたり、而して本年中に設計を了し、明春解氷期を待ちて工事に着手し、明後年上半期より作業を開始すべき豫定なり、此際聊か氣懸りなるは外國に註文したる機械が豫期の如く到着すべきや否に在り

△製紙器械は 瑞典に、ボイラー、スティームタービンは米國に、其他內地に於て製作し得るものは內地の工場に、夫々註文を爲し、殘るは唯工場の設計のみにて、即ち予の今回の新義州行も之が爲めなるが、現在の狀態にては米國に於て、我社註文品の積出しを禁せらるゝこともなかるべく、瑞典も亦同樣なれば、來年下半期の初頭には

△全部到着す べき見込みなり、夫れにつけても機械其他材料暴騰の爲め戰前百五十萬圓にて建設し得べかりし工場は、其三倍即ち四百五十萬圓を要し、爲めに我社重役中には工場の建築を一時延期すべしとの意見を懷く者もありしも幾月の後、或は何年の後終息すべきや豫想され能はざる歐亂の爲め

△事業の延期 を爲さんには會社設立の許可を與へられたる總督府に對し、殊に予等の事業に同情を持せられたる當局者に對して相濟まざる次第なるを以て斷然たる決心を以て、莫大なる經費の增加を忍んで計畫を進むることゝ爲したり、建設用材料其他工場の如きも、意外の事變發生せざる限り

△豫期の進捗 を見ることゝ信じ居れり、斯くて第一期計畫に於て一日に一萬乃至一萬五千噸のパルプ產出を爲し得るに至らば、第二期計畫に移り製紙を開始する筈なるも今日の處其期を明言する能はず

…を前月に比すれば移輸出に於て二十一萬八千餘圓輸移入に於て五十七萬餘圓の增加を來せり而して客月中輸移出品の主なるものを擧ぐれば皮革製品の十九萬九千餘圓牛皮の七萬五千餘圓重石礦の七萬四千餘圓大豆の二萬五千餘圓米の二萬四千餘圓等にして前月に比すれば何れも價格の增加を示せり

輸移入品の主なるものは生金巾及び生シーチングの四十一萬二千餘圓綿織絲の八萬六千餘圓煙草の六萬一千餘圓清酒の四萬五千紙類九萬四千餘圓洋紙其の他の餘圓毛織物の三萬餘圓石油及び機械の三萬四千餘圓諸器械類の三萬七千餘圓等にして漸次歲末に際し活況を呈し來れり

●棉相場順調 全南

十二月一日の棉花相場は前値より…ミドリング五厘除の騰貴を來し…尙慶北方面に於ては二十五圓八十錢を稱へたるに過ぎず之に他の不便なる地方は尙安しと一般に對して全南の入札相場は榮山浦の二十六圓五十六錢を最とし木浦の棉會社側が莞島に於て說落したる綿花相場は二十六圓を跳ねるものすら有りたるが之に二十六圓を突破したるは前日の指定相場以上を示したる前日の指定相場の基準が米國相場に存したるを大阪に移して實際に近づき來れるが爲めなるべく業者の入札標準が米國相場に在らずして大阪現物取引に在りたる實情を反映するものなりと

●町洞里有財產規程

京畿道にては本月七日附道令第十號を以て町洞里有財產管理規程を發布し同日より施行の事とせるが同規定に依れば町洞里有財產は府尹又は面長之を管理し不動產は公共の用に供するもの、外五ケ年以內の期間を定めて賃貸し穀類は利附にて一ケ年以內の期間を定めて貸付け而して財產の處分を爲さんとする時は府尹は道長官に面長は郡守の認可を受くることゝ爲せり

●連帶小荷物注意

滿鐵京城管理局線發鐵道院線行連帶小荷物の容積又は重量にして鐵道…

●工藤平南道長官

事務打合せの爲め入京中なる平安南道長官工藤英一氏は七八兩日に亘り督府を訪ひ所管事務に付打合はす處あり尙兩三日滯在の豫定なりと

●京畿恩賜金決算

大正六年度京畿道臨時恩賜金決算を調製せるが左の如し

△歲入… △歲出…

●久水外事課長答訪

支那公使館書記官ランン氏及び在北京英國公使館商務官ブラン氏の訪問に對し久水總督府外事課長は八日正午過ぎ政務總監の代理を兼ね兩氏を朝鮮ホテルに答訪せり

●藤原取締役入京

朝鮮製紙會社專務取締役藤原銀次郎氏は…

●淸津貿易活況

淸津港の通過貿易は近來間島琿春地方の產品たる粗銅、白隱元等の內地積出激增せるも又一方通過輸入としては前年來間島琿春地方產業著しく良好なりし結果經濟界順調に向ひて民間購買力の增進を誘致し物資の需要增大せるに昨今恰も貿易季節に入り…其價格著しく增加せる…

●米武官入京

北鮮方面旅行中なりし在東京米國大使館附武官ボールドウキン大尉は八日夜元山より入京一兩日滯在の上西鮮方面視察の途に上る筈

●府內小學校長會議

京城府にては七日午後一時より府廳樓上に於て府內各小學校長を召集し會議を開き…

朝鮮產業界の恩人下村氏の事
山本氏と語る

●新內閣對南決議

七日閣議開催され交通總長曹汝霖、農商總長田文烈兩氏以外の閣員全部出席し陸榮廷氏に對し爭鬪を中止し其の不當要求を撤回せしむるの機會を與へ然らずんば戰鬪再び開始せらるゝに至る可しとの忠告を爲すに決したり 大總統は今や武力手段に依りて解決を求めんとする內閣の決意に贊成なり之南方急進派の強硬要求に主因を措くものなり(北京特電)

●潮汕鐵附近激戰

廣東軍は潮汕鐵道附近に於て福建軍と激戰を交へつゝあり(上海電報)

●林公使抗議提出

林公使は七日外交部を訪問し無線電信借款は獨逸人が關係せるより日本の利益を損害すとの理由を以て抗議を申込みたり(北京特電)

●又妙齋宗匠

裏千家の又妙齋宗匠…

朝鮮彙報 十二月號

大正六年十二月號 (每月一回發行) 定價…

目次 ◎日鮮… ◎稅關長に對する總督訓示 ◎日本朝鮮及獨逸に於ける人口動態統計に關する觀察 ◎朝鮮の燃料問題(其二) ◎最近の法律思潮(承前完) 牧野英一

彙報 大正六年十一月附總目錄

販賣店 朝鮮各地の書店に販賣す

取扱 京城本町二丁目 ウツボヤ書籍店 振替京城二二二

大正七年の運試し
勸業債券月賦賣出し

第六十七回 くじ引 初回 明年二月
くじ數 二千百本 總當り
此割增金總計 八萬六千壹百圓

○運が好ければ一圓で二千圓に當る
○每月一圓宛を拂込めば債券四枚を買約し每月…を樂む便法あり
○月賦金債券一枚分に滿つれば買約せし中より御望みの分を引渡すものなり
○新債券六十七回は空前の盛況故早く申込まざれば賣切れる事あり
○今吾社獨特の販權券錄月賦販賣に加入すれば左記の當籤金を樂む事を得る方法なり

十圓券 十二月籤總高 三月籤總高 四月籤總高
一月籤總高 十一萬七千九百二十圓 七萬八千四百六十圓 七萬四千五百九十圓
三萬五百七十圓

詳細は葉書を以て申込あれば直ちに營業案內を送呈可仕候

國民興產株式會社京城出張所
京城府黃金町一丁目 電話三〇七九番 振替京城三六〇七番

誠實

コロタイプ印刷。繪ハカキ製造
諸官廳、各學校、諸會社記念寫眞帳
雜誌口繪類、コロタイプ印刷
寫眞應用各種年賀狀。繪はがき類

門田寫眞製版所

カスミ網

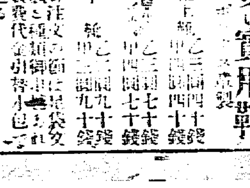
(極上絹糸製)其他雁鴨兎網無双網等種々あり
京城本町二丁目 吉備商會 振替京城四三三番

緊急廣告

歲末に際し例により注文非常に輻輳致し候に付き十五日以後に於ては自然仕上期日遅延可致候故此際至急御注文の向は御下命被下度此段謹告仕候也

京城太平通一丁目 京城日報社寫眞製版部

丈夫で安い實用靴



東京 ツブク靴店

京日案內

普通 一回一行 五十錢 番外 …

貸倉庫有り 京城本町一丁目 高木商店 147
能筆女事務員募集 149
給仕募集 日韓印刷會社 55
店員數名募集 124
海市商會 京城本町二 63
銃砲火藥獵具 瀧川銃砲店 127
貸家 白水 146
男女給仕募集 日韓印刷會社 145
古本 野村書店 100
恩給年金即時 山口屋 138
有給社員二名女事務員採用 148
京城吉野町 142 143

●新年詞壇募集
漢詩「海邊松」(戊午新年)…

[illegible]其結果先づ畜類の特定運賃を全て去る九月よりは特殊貨物の倍賃次に半製品を二級資源的物品を[illegible]廢し續いて特定運賃をも漸次廢止制度を實施し更に引續き運賃等級三級とし更に貴重品類を高級品とし最低運賃を以て之を取扱ひ次の[illegible]しつゝあり今日に於ては僅少の特品種別の一大整理を行ひ以て運賃なし尚ほ殺外品として家畜類、車に各種建築用材、織物原料品一級の如くにして得る所の收入增加額[illegible]くべき其他は漸次二割乃至三割の增率を行はんとするにあり斯く

[illegible]銅材市價は米國の禁輸問題にて大時に市況一時緊張せるも其後引續き惡感を告げたる反動と一部素人筋の投物等の投物と米國鐵商の思惑輸出の禁令に因る海運及び造船界の一頓挫を唱へ居れども商內なし尚相場は低落歩調を辿り昨今撒拔普通物五百八十圓、上等銅板八百乃至九百圓、汽罐銅拔千圓乃至千二百圓

☒巳年の終りに 毒蛇捕りの話し

一番景氣が好いのは八月だ

夏になると朝鮮人はサルモサでップを拵へて呑むと元氣が付く

四十越の男はサルモサを支元の寸紹介しなければならぬ。昔朝鮮[illegible]箱に入れてある藥を頭けた「今此の古い法令には盜人は死刑[illegible]家にゐる俺等の仲間が十八許り居た。そして泥棒が一度捕へら[illegible]りますがこの十八人が一夏働くと皆が最後まで殺されるので[illegible]で四百匹は捕れます。そして一匹が[illegible]の相場は大抵四五十錢から五六圓位る、値の好いのは

矢張り大きく

て赤斑のあるやつが一番いゝのだ

分は金にして皆が平均に分けます澤山捕つた者も捗く捕つた者も皆一樣に同じ分前を貰ふといふことをこに不平がある樣にも思はれますがそれは他の團體とは違ひますから決して苦情をいふ者はございません。何故といふに俺等の仲間は皆親身の兄弟同樣にして居りますから有る時は一緒に使ふし無い時は無い矢張り一緒に苦勞するのです。そして別に食ふに困る樣な事はありませんね。オイその帳面を持つて來てこの御方に見せて御上げ」と一人に吩附けると一人が家の中に入つてやまと

綴の古い帳簿

を一冊持つて來た表には致富といふ題が付いてゐる四十越の男は一頁々なめくりながら「御覽なさい一年の會計は皆此の帳簿に乘つてゐます」と見せる。私は一寸內容を調べて見ると拙い手で一金何圓何十錢也右何某の御邸へ長魚一匹サルモサ何匹といふ風に一々記してある。そしてそこには朝鮮知名の士が澤山乘つてゐた。一年の會計を調べて見ると一番景氣が好いのは八月である。その月の收入だけが二百五十何圓ばかりある。それは八月にサルモサの需用者が一番多いからださうだ。そして一體

このサルモサ

をいふ物が何ういふ時に需用されるのであらう

か、內地人も元氣の衰へた時蝮を食ふ事があるが此サルモサは多く肺病、神經衰弱、打身等にはこの上もない良藥で夏になると朝鮮人はそれをソップにして飮むのだそうだ。そしてこれを何うしてダンクンが捕る樣になつたかといふについては先ずダンクンの由來を一寸紹介しなければならぬ。昔朝鮮の古い法令には盜人は死刑[illegible]たそして泥棒が一度捕へら[illegible]が最後殺されるので[illegible]がしかしその中の

年の若い割合

[illegible]者は五六年[illegible]なれたものその泥棒が監獄から出ても世間の人は相手にしないし、といつて生活に苦しいからその前科者が集つて一團體を作つたのが即ちこのダンクン團である。そしてこのダンクン團の仕事は何かといふと刑事の手先きになつて犯[illegible]力[illegible]を受[illegible]取次命令[illegible]に下[illegible]それを捕つて來る樣になつたがその內彼等も段々とそれが本業になつて了つたのであつた[illegible]

人を見付け出すのが役目であつたそして昔朝鮮の刑事といふのは必ず一月に何人といふ罪人を捕へなくては怠慢罪として忽ち馘られるのであつた。そこで馘になり掛つた刑事は仕方なくそのダンクン團を尋ねて往つて

相談を持掛け

[illegible]

商店の飾窓に映じた 華かな歲末の色彩

日每に賑ひを增して行く本町筋

年末に近づいて行くに隨つて歲暮の色彩がだん／＼強く華やかになつて來た、年末だから賑やかな本町の[illegible]の支度にかゝつたので呉服屋雜貨屋小間物屋などは本月に入つてから賑やかになつて商店街を

♣今日此頃は

通る人馳る車さへもザワ／＼しくおつ覆せた樣な街並に歲暮大賣出と書いた赤旗やビラなどが人通りを狹めて慌しい事此上もない平田、明治屋、三越、三中井、丸一、龜屋などの飾窓には大賣出品や贈答品などが年末の景氣を唆つてゐる。

♣何處を見て

も鳥兎匆々な氣分で騷やぎきつてゐる樣だ處で實際の景氣は？と見ると從來物價の昂貴に驚いて買控へをしてゐたものが年末に押迫ると我慢が出來なくなり春著の支度や年末年始

♣昨年に比べ

ると增加する見込みである相な年末年始の贈答品は官吏會社員等の年末賞與の下る十五六日頃から二十五六日頃にかけて賣れ行くが今では未だそんな氣振りもない各商店では相場の動搖から仕入を手控て居たが

♣押迫つては

せつぱつまつてゐられず大分內地から荷を引いたが何分船腹の不足と鐵道の貨物停滯とで大荷物は受付られず止むなく小包として移入してゐる其結果商品は思ふ程低廉にならず運賃は四五分高くなり平年ならば商賣がしにくいが本年は一般に金融が潤澤であるから些とも影響を蒙るまいと

景氣づいた歲末賣出し ＝この頃の本町通り＝

關門隧道出願

近く山口福岡兩縣を經て

資本金一千五百萬圓を以て中村精七郎氏主となり經營せんとする關門トンネルは大正八年より十三年までの六ヶ年間に第一期工事を竣成せしむる事となり既に發起人の調印を了せしを以て近く福岡山口兩縣廳を經て內務省に出願をなす筈なりと

特志解剖

工藤辯護士の遺骸

故工藤辯護士の遺骸は既記の如く遺言により七日午後三時京城醫學專門學校に於て特志解剖が行はれたが芳賀院長始め同校教授連及び京城醫會員立會の上、先づ各員遺骸に對して敬禮を行ひ、次で式に則つて各內臟の解剖を行ひ、醫學上の研究を終へ[illegible]縫合を了せる後、[illegible]博士は[illegible]者を代表して恭しく遺骸に[illegible]故工藤忠輔君の遺言により[illegible]同人は之に因て得たる科學上の知識は實に多大なるものであるが[illegible]族を代表して「故忠輔の遺言によつて學術的研究に資せんが爲に、特に解剖を御願申上げたる處、快く御承諾下されて茲に研究を遂げ、聊かにても學問上に裨益する事を得たらば、故人の志は茲に酬いられたもので[illegible]

母子六人投身

貧兒終に溺死

[illegible]

中學生の萬引

四十名團結して

[illegible]

馬山灣內の和船遭難詳報

既報馬山府外に於て去る四日午後七時半頃暴風の爲め遭難せる鮮人乘込み和船は同日は市日にて群集したる內鮮人は鎭海面石里尹甚烈(三〇)の所有する渡船に二十八名乘り込み荷物を滿載して航行中漸次浸水し初めたるより船中は上を下への大騷ぎとなり急を見たる貴谷里の住民が漁船三四隻を現場に漕ぎつけて救助に努めたる結果二十二名の鮮人乘客は救助されしも飛鳳里居住山口能光妻うめ(三一)及び長女照子(六)朝鮮人乘客四名合計六名の乘客は遂に溺死せり急報に接し鎭海馬山の官憲、要港部員等汽艇にて現場に急行し屍體搜索に從事し間もなく六人の死屍全部を發見せり原因は尙取調べ中なるが船體の腐朽し居たる爲め

曲者と格鬪す

[illegible]大邱驛前[illegible]名の曲者[illegible]張を呼び出め自分は大邱署の者なるが取り調ぶべき件あるに依り[illegible]布を奪ひ取り逃走したるを[illegible]町立木某宅の附近にて追ひ付き之を以て張の左掌及び左胸下部に斬[illegible]負はせ其儘逃走せる急報に依り大邱署にては直ちに非常線を張り犯人の搜査に從事したるも遂に逮捕に至らず目下嚴重に探索中なりと被害者は加療中(大邱)

妻を斬つて自殺

[illegible]院洞にて內緣の妻遊氏と嫉妬喧嘩の末朝鮮式庖丁を以て頭部四個所に斬りつけて死に至らしめたる上己れは剃刀を以て自殺を企てたるも果さず逃亡中を平昌警察署の手に逮捕され加療中なりしが此の程遂に絕命せり

十一戶を荒す

京畿道水原郡水原面[illegible]は本年十月下旬より十一月末迄に同郡內[illegible]外十戶より現金[illegible]を竊取し[illegible]取調べの上檢事局へ送らる

京中の兎狩

七日夜降雪ありたるより京城中學校にては八日淸涼里、加五里、麻浦方面の三ヶ所に於て兎狩を催ふせり

消し止む原因は溫突を改造したるものを乾燥する爲め焚きたる火が過度に及びて發火したるもの損害約六十餘圓

代書人の橫領

忠南保寧郡大川面大川里居住代書業[illegible]は去る六月中[illegible]新興里韓相鎬より土地[illegible]證明申請を依賴されたる際收入印紙代[illegible]を受け取り[illegible]

海賊の巨魁捕はる

安東縣の馬賊にて去る一日夜安奉線鷄冠山驛にて逮捕されたる王景五(三七)は三日支那官憲へ引渡されたるが四日銃殺されたり又其の與黨らしきもの四日草河口に於て日本警官の手に逮捕されたるが二十八日夜久下沼巡査に重傷を負はせたる兇賊は其の後取調べの結果去る六月中旬

ハーデー翁とバーカー夫妻

バーカー翁は八日釜山を通過し下關に向ひたり之と行違ひに米國人ハーデー夫妻は[illegible]寒く本年中同地に滯留す可き筈なりしを引揚げ來りたりと同日下關より大阪に向ひたり(門司特電)

永登浦の豹狩

永登浦警察署にては十二月二日及び三日の兩日管內果川面莫溪里所在淸溪山にて百五十餘名の部落民を勢子として豹狩りを催したるが一頭も發見せざりしと今後も隨時豹狩りを爲すべしと

三淸洞の小火

京城三淸洞五十五番地代書業金東益方より八日午前四時十分頃發火常備消防出動溫突四間を全燒して同五時鎭火

軍需品工場爆破す

職工千二百名慘死

＝多分獨探の仕業か＝

加奈陀モントリール來電＝六日ハリファックス軍港軍需品工場爆發し千二百名の職工粉碎され軍港殆ど全滅の有樣となれり原因不明なるも獨探の所爲ならんと目下嚴探中なり(沙市電報)

芽出度記

[illegible]

懸賞 新年文藝 募集

課題 ▼和歌『寄馬祝』▼俳句『初東風』▼川柳『吉』▼俗謠『若水』▼ものは付『樂しい物は』▼一口噺『新年に因めるもの』▼謎『門松とかけて』▼下句付『初夢に』

制限 (一人に付)一題一首又は一句、但し一人にて幾通投稿するも可し(用紙)葉書又は同型の紙(〆切)十二月十五日(注意)題每に別用紙に認むる事(京城日報社編輯局新年文藝係宛送附する事

賞品 各題に付▲一等一圓(一人)▲二等五十錢宛(二人)▲三等三十錢宛(三人)(但し本社代理部の相當品物を贈呈)

僧侶を脅喝

[illegible]海保面文場里旅人宿曹姓女(三七)は同居中なる金炳鮮(三七)と共謀し[illegible]を捲上げて處分せると發覺し兩名は此程文場派遣所の手に檢擧さる

俳句

題『[illegible]』(一人五句以內)(注意)締切十二月十五日、用紙半紙型京城日報社編輯局俳句係に宛て投稿の事

於東京化學工業博覽會

金牌 受領

最上 醬油

釀造元 日本醬油株式會社

愈々いでたり！

萬年筆に倦いた！ 普通ペンは圓滑ならず！ と云ふ方は?!

米國製十四金ペン 特殊創案 自働インキ含裝置『パインビジス』ペン

定價 金壹圓九拾五錢

進步的經濟的文房具の需要日に加はり平常使用の「ペン」先に金製のものを使用するの最も適切なるは言を俟たず而して此の金「ペン」先を裝する軸エボナイト製に到りては唯一の「パインビジネスペン」あるのみ[illegible]特殊創案の吸入物によりて金ペン先耐久力が斯せらるゝのみならず一度「インキ」を含ますれば宜く數頁の使用に耐ゆる理想的の商品にして各銀行、會社、官廳より御用命續々たり

發賣元 京城大平通一丁目 振替京城二〇〇番 京城日報社代理部 電話六六〇番三二六番 內十八番

中央婦人病院 院長[illegible]

優等淸酒 發賣元 本莊酒店 電話 六五四

診察時間 午前九時 午後六時 初診の御方は可成午前中 京城黃金町二丁目(朝鮮銀行裏門前) シメノウチ齒科醫院 電話八一二番

特約店募集 名刺 見本帳及割引表 送料六錢御送付下され候へば直に御送付可仕候 堀井謄寫堂京城出張所

男の生殖器病 生殖器畸小、包莖、陰萎、早漏、遺精、夢精、勃起不全腦神經衰弱手淫等による諸症の人は自宅で簡單秘密に新案特許眞空療法器を使用せば速に効力現はれ、除想外の偉効に驚くべく二大博士も其實効を證明し[illegible]ハガキで申込まれ圖入說明書を無代寄送す 東京神田[illegible] 眞空療法研究所

陸軍拂下 京城府漢江通[illegible] 佐藤古着店

百日 淋病 ばい毒 帝國醫科大學院 にせ物に注意 大阪有田 ドラッグ商會 他の藥店に販賣を不許 京城南大門通 ドラッグ商會

櫻御殿

第九十回　大阪　霞の家主人

雙生男子（三）

斯うした間にも、釆女は勤務を怠らなかつた、卯刻前に扮装を調へて、助左衛門夫婦に挨拶、村平を供に伴れて立ち出づる

「もし若様、飛んだ事が出來した、ぢやございませんか」

村平は途を歩きながら云つた

「然し、初瀬どのゝお命が助かつて重疊ぢやつた、わしは昨夜こそ何う致さうかと思うたわ喃」

「お筆がお供して、倖れ出したのでございませうか、若様は何と思召しますな」

「わしは何うであらうと思ふ、お

「その事も存じ居る」

「勞なお助け申したいでございませんか、それに」と村平はぎろ〳〵した目で四邊を見廻して、彼したお方が御殿の中にお在で遊ばすのは、まさかの時、どれほど御便宜になるかも知れません」

「わしも一つは其を存ずる」

「追々時節到來でございます、手前共よりは大殿様が其業の際で、今日は明日はとお手術をお待ち遊ばすでございませう」

釆女はこれを聞くと、急に兩眼を濕ませて

「忘れぬ〳〵、片時も忘れてたらうか」と強く云ふ

然の様子が變であつた」

「その忠義者の志を無にするやうな者でございますな」

「わしは初瀬どのが助けたい」

「村平も同じことでございます、今日にも奥御殿へお行で遊ばしたら、奥方様へ命乞ひをなさいまし」

「初瀬殿は罪人でない、罪人でない者の命乞ひをするは異なものぢや」

「助左衛門様も飛んだことをお約束なされたものでございますな」

「其處が武士の意地であらうわ」

「萬一、初瀬様のお行方が分つたら、若様見殺しになさいますか」

「見殺しにはされない、初瀬殿を見殺しに致すのは、恩誼を泥土へ捨てるも同じぢや」

「それに初瀬様は、同じ阪東のお生れださうにございます」

村平は途端にぴたりと止つて

「大殿さま、お聞きなされませ、若様は此のように健気なお心をお持ちでござります、首尾好く御本意を遂げさせたまふよう、お守りなされませ〳〵」と高く天を仰いで云つた。

「初瀬殿を失ふは、わしの本意を遂ぐる道を失ふも同様ぢや、何とでもして見ようぞ」

釆女と村平とは斯うしたことを語り合ひながら城へ入る、まことに彼等主従は、伊奈圖書が恨みを呑んで、京三條の新關の露と消えたその無念さを忘れる隙を持たなかつた

然も、當の敵は城の内に在る、毎日同じ日を戴き、毎晩同じ星に照らされて世を送る、それに添寄ることならねば、徒らに無念の齒を噛んで、その下に飼ふ、その内には時が來て、本意を遂ぐる歎びがあるであらう、と思ふ心に引かされながら、時には無念の涙が溢れる

釆女は神妙さうな面をして、正之の前に勤めた、その日は心地が良くないと云ふので、奥殿の居間に居た、釆女もその次の間に控へる

夕暮、暫時の交替で、詰所へ退らうとする廊下の際から、芳野が慌しく駈け出して

「釆女どの、聞きたいことがある」と云つた

釆女の爲めには芳野も恩人の中である

「手前へ……何事でございます」

日報俳壇

●圖南吟社詠草●（黄海道新報）

豫て寄稿諸君中なりし句會開催の議熟し十一月三十日の旅日、府前中陽館に於て其の第一回を催す、出席者八名、運座四回の後[illegible]散會す（[illegible]幹事報）

天長節

天に陽澄み地に菊薫る佳節哉　香仙

秋の暮

丘の上に日挽く驢馬や秋の暮　竹風
雑木に殘る枯葉や秋の暮　同
牛に牽かれ走る子供や秋の暮　阿部
樹に騒ぐ雀の聲や秋の暮　香仙
牛おふて歸る農夫や秋の暮　湖鏡

霧

朝霧や洞窟に住む乞食の火　湖舟
朝霧に馱馬嘶ける曉哉　七軒
朝霧の晴れゆく峰の旭哉　阿部
江畔の我が家灯しぬ霧の中　方水
路窓に峙つ島や霧晴るゝ　香仙
霧の事記す航海日誌かな　同
鐘樓の旭に光る霧の雫かな　竹風
朝霧の中を汽車過ぐ響き哉　同

秋水

谷河や滾々として秋の水　湖鏡
ほろ〳〵散る銀杏下や秋の水　同
むさきもの食む鳥居て秋の水　湖舟
秋の水空の深さを寫しけり　同
秋の水に淋しく澄める小魚哉　七軒
秋の水白く流るゝ溪間かな　二見
芸の月白く映れり秋の水　方水
足跡に秋の水澄む刈田かな　香仙

紅葉

物乞の唄へる門の紅葉哉　竹風
人戀ふ寄る鹿に餌を遣る紅葉哉　同
河上の紅葉乗せたる筏かな　耶麻
酒の香の消ゆる嵐や夕紅葉　湖鏡
鐘樓に夕風渡る紅葉哉　湖舟

▲酒泉吟社次回課題「雪」「寒月」「冬木」二題五句、締切十二月二十日、同好者の投句を歡迎す、投句は新義州前下川香仙宛の事

戀しや木村屋ぬしや山邑よ甘黨辛黨ノ新世帯　（京城明治町　[illegible]八七）

嬰兒が泣く時

蟲が起つたて寶藥を飲ませた位では不可ません

嬰兒がむづかり出して怒つたりしますと母親は別に氣にも掛けないで『蟲が起つたのだらう』と蹈し返り手當を加へた所で蟲下しを飲ませる位ゐに過ぎません、隨つて其の蟲が起る原因などは究めないでゐる嬰兒には誰にもあり勝の事だとばかり平氣で居るのが世間普通のやうですが此嬰兒がむづかつた時に氣をつけないと後に至つて

◇取り返へしの附かぬ事が出來ます、嬰兒がむづかる病原諸症の起つたと云ふのは多く消化不良の場合です、又に結核の場合からむづかる場合があります、何れも他の病氣を惹き起しますからむづかりやうが激しかつたら授乳は時間を定めて與へ泣くから乳を香ませると云つた様な事を避けるやうにし菓子だとか他の食物を與へる事を控へ目にするのです、そして醫師の手當を受ければ結構です、それから嬰兒が結核性腹膜炎に罹る場合があります、之を俗に癇癪と云ひますので病氣に對し知識を持つて居ない親は癇癪は五癇の一つであるから

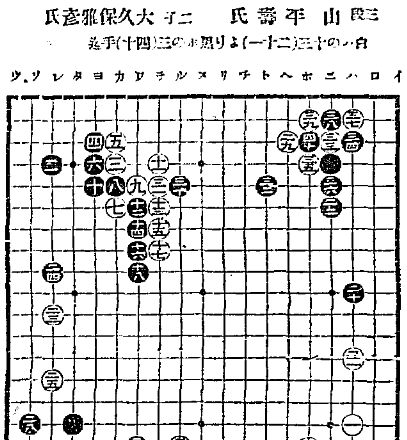
◇蟲下し　を飲ませれば能いと丸藥を與へ平氣で居る人が多く又蟲下しの藥の能書にも此重い結核性腹膜炎即ち癇癪が立所に癒るやうに書いてあるので蟲下し藥の効能を飽く迄信じる人のあるのも無理はありませんが結核性腹膜炎は生命取の病氣なので手遲れになると名醫の力も及ばない事になりますから癇癪らしいと見たら何を措いても醫師に診て貰ふに限ります

寫眞　寫眞出張撮影　寫眞銅版　亞鉛版
取も熟錬せる技術を以て最も迅速と叮嚀懇切を旨とし御高需に可應候
京城日報社　寫眞製版部

圍碁手合（二）

三段　山平壽氏　二子　大久保雅彦氏

白六十の十三（二十一）より黒ホの三（十四）手迄



大阪株式間電

八日前場　六〇、九〇　後場　六〇、九〇

日本郵船	三〇二、〇〇	三〇一、九〇
同新株	[illegible]	[illegible]
東京株式	一七三、五〇	一七三、九〇
大阪株式	一九四、四〇	一九三、二〇

大阪期米

▲八日後場
▲當限寄付　二十四圓二十五錢
▲中限寄付　二十三圓九十五錢
▲先限寄付　[illegible]

電にて中十錢より八九錢先八十四五錢を持合ひ結局ノ四錢と持合の裡に小堅き散會を告げたり
▲常限四節二十圓丁度
▲[illegible]

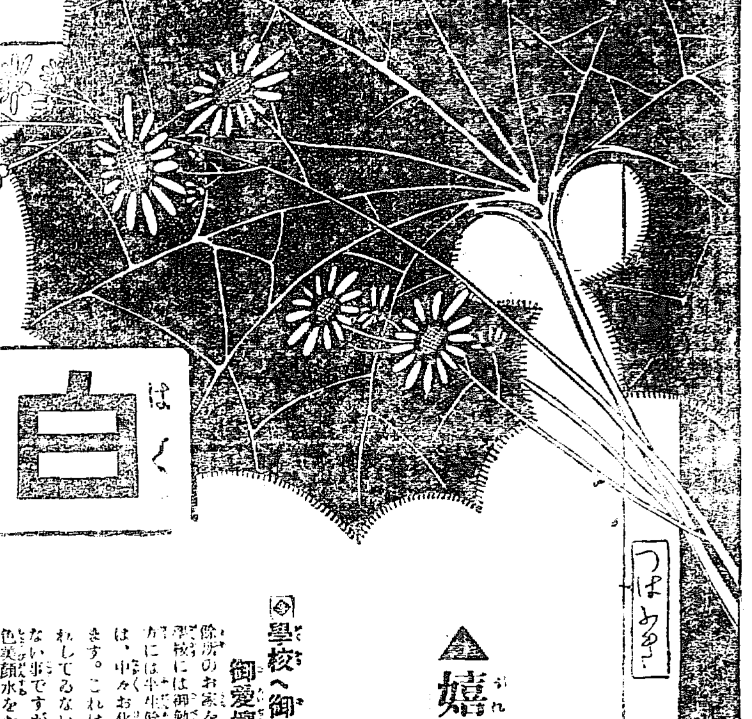
仁川米豆取引所

八日の二月限
寄付　二十九圓八十五錢
[illegible]

朝鮮總督府警部　丁奎鳳氏著
新刊　日鮮對譯　警察用語
袖珍判定價五十五錢　郵税四錢
著者は多年京城警官練習所に於て語學教授として令名ありし丁奎鳳氏にして内容を分て文法及單語會話の二篇とし會話は普通用語保安警察衛生警察司法警察にわかち丁寧懇切を極む本書が警察用語の良書として如何に適切なるかは贅言を要せじ
發賣所　京城太平通一丁目　振替京城三〇〇番　京城日報代理部

贊化病院　京城明治町一丁目　電話二四〇番
内科　小兒科　入院隨意
毎日五名を限り無料施療す
醫學博士　古城憲治
岡山醫學士　上野亮藏

エクレス　腦神經衰弱　頭痛特效藥
高橋藥學博士監督の下に出來た、腦神經衰弱、頭痛特効藥にして頭痛、腦神經衰弱、其他神經障害より起る諸病に驚くべき効能あり。
（定價）金二十錢　五十錢　一圓三十錢
發賣元　東京室町　泰昌製藥株式會社



白色美顔水

つばめ

嬉しいと思召す事四つ

◇學校へ御通學の御愛孃とも〴〵　除所のお家を御訪問なさいと云ふ場合、學校には御勉強でも未だお化粧の方には未だ生餘りお構ひのない方々は、中々お化粧が美しく出來兼ねます。これは顔の地肌がお化粧を馴れしてゐないからで、全く無理のない事ですが、然ういふ場合に白色美顔水をお用ひになれば、誠に勞なくすら〳〵と、美しい、品のよいお化粧が出來ます。それから

◇汽車の時間等が迫つて大急ぎと　いふ樣な時、または御主人が外から御歸宅になると其儘「さあ直ぐ一緒に出かけよう。」と洋服も脱がずに仰在る樣な場合、其他何にしても斯うしたお急ぎの時などには得てお化粧も變な工合になり度がるものですが、そこを白色美顔水を一寸お用ひになりますと、狼狽る必要もなく、直ぐに充分美しい整つたお化粧が出來るのです次に

◇吹出物やにきび　また顔色の工合で何う骨を折つて見てもお化粧が思はしくなく、斑になり又變な色合になり、濃く附ければ又白ペンキの樣で、如何しても工合が惡いさいふ樣な場合、白色美顔水でお化粧をなされば、これは又何の苦もなく、すら〳〵と行渡つて、誠に自然生れつきの色白かと見違へるばかり、すつきりと、高尚な、一美しい〳〵お化粧ぶりを發揮しますのです。それから又

◇肌地の荒い方　脂の多過ぎる方、これは丁度反對の方々ではありますが、お化粧が美く出來ぬ事は一緒であります。此方々は白色美顔水を常用なされば、毎も氣持よく、勞なく、美しいお化粧が出來るこいふお喜びに加へて、肌理は次第に滑かに美しくなり、素顔の美しさを添へる一方、脂の多い方は其爲めに出易い吹出物なども出なくなるこいふ。一寸反對した兩方によい成分を、此化粧料に含んでゐる事が判然分ります。さればこそ白色美顔水は

◇尊貴の御用品として御信用厚く　世の上中流御家庭の必要品こしてます〳〵人氣を集めてゐる次第であります。萬一にも未だの方は、早く此學者の創製したる新化粧料にて、從來のお化粧の缺點をお取去りなさる樣お勸めします。（定價一瓶金二十錢■各化粧品小間物店にあり）

美顔化粧料發賣元　桃谷順天館
東京市日本橋區本町四丁目
大阪市西區靭南通二丁目
東京市麹町區有樂町二丁目（實驗部）